



千葉大学大学院看護学研究院附属  
専門職連携教育研究センター

令和 6 年度（2024 年度）  
事業報告書

令和 7（2025）年 3 月

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

# 目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
1. 理念、ビジョン、ミッション	4
2. 組織	5
3. 専門職連携教育研究センター規程	9
4. 令和6年度(2024年度)事業計画	11
III. センターの取り組みと成果	13
1. 教育	13
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	13
2) 新たな IPE プログラムの開発	16
3) FD の充実	18
2. 実践・社会貢献	19
1) IPE 研究拠点からの発信	19
2) IPW の促進	21
3) 政策提言	23
3. 研究	23
1) IPE 研究の進化	23
4. 組織運営	23
1) 予算と人材の確保	23
2) PDCA サイクル(plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営	24
3) IPERC の将来構想	24
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	25
1. 令和6年度(2024年度)外部評価委員会の開催	25
2. 外部評価委員による講評	25
3. 外部評価委員の講評のまとめ	27
V. 資料	28
(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績	28
(資料2) IPERC 主催研修受講者	34
(資料3) 地域貢献事業実績	36
(資料4) IPERC 特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金 (いずれも継続)	42
(資料5) IPERC 外部からの寄付金及び委託費	42
(資料6) 研究業績	43

## I. ごあいさつ

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター（IPERC）は、本年度、設立10周年の節目を迎えました。この10年間、私たちは専門職連携教育（IPE）の発展を基盤としながら、専門職連携実践（IPW）の推進、さらにIPE・IPWに関する研究の発展に取り組んでまいりました。これまで支えてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

10周年の節目となる本年度、IPE国際フォーラムを開催し、6か国の専門家とともにIPEの実装状況の課題と展望について議論する貴重な機会を得ました。このフォーラムでは、各国の医療・福祉システムの違いを踏まえながら、IPEを効果的に推進するための戦略や教育手法について活発な意見交換が行われました。国際的な視点を取り入れることで、IPEのさらなる発展に向けた新たな知見を得ることができました。

また本年度は、特に大学病院との連携を一層強化し、IPE・IPWのさらなる発展を目指し、保健医療、介護それぞれの機関における組織横断的な連携の促進に向けた新たな試みを開始しました。また、臨床実習・臨地実習におけるIPEの拡充を目指し、DIPE: Daily Interprofessional Educationのトライアルをスタートさせました。DIPEは、IPEの学びを実際の医療現場で深める重要なステップとなると期待されています。

さらに、私たちのIPEの中心的な取り組みである「亥鼻IPE」は、着実に進化を遂げています。学生からの意見を取り入れ、授業内容のブラッシュアップを継続的に行いました。また看護系大学モデル・コア・カリキュラム構築への参画を通じて、専門職連携教育を医療系教育の枠組みに組み込み、IPEのさらなる普及を目指しています。大学院においても、新たなIPEプログラムを開発し、より専門性の高い教育へと発展させました。また、国際的なIPEの推進にも力を入れ、海外の大学との連携を強化し、グローバルな視点を取り入れたIPEの展開を進めています。

この10年間の歩みを振り返るとともに、私たちは次の10年に向けた新たな挑戦を始めます。専門職連携教育・実践・研究の可能性をさらに広げ、IPE・IPWの質を高めるための取り組みを続けてまいります。特に、大学病院や地域医療機関とのさらなる連携を深め、IPE・IPWを実践に結びつける仕組みを強化することが今後の大きな目標となります。

最後に、ご報告がございます。本年度をもって、井出成美准教授が異動されることとなりました。これまで9年間にわたってIPERCの発展に多大な貢献をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。また、私自身のセンター長としての任期も満了となります。2025年4月1日より、新たに諏訪さゆりがセンター長に就任し、次の時代のIPERCを担うこととなります。新体制のもと、より一層の発展を遂げていくことを期待しております。今後とも、皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

2025年3月31日

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター  
センター長 酒井 郁子

## Ⅱ. 専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 (2015) 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 (2015) 年 2 月 23 日、平成 27 年度(2015 年度)第 1 回運営委員会で決定した。

### 1. 理念、ビジョン、ミッション

#### 1) 理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

#### 2) ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部(医学・薬学・看護学)の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

#### 3) ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

##### (1) 教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

##### (2) 実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象の IPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

##### (3) 研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

##### (4) 組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

## 2. 組織

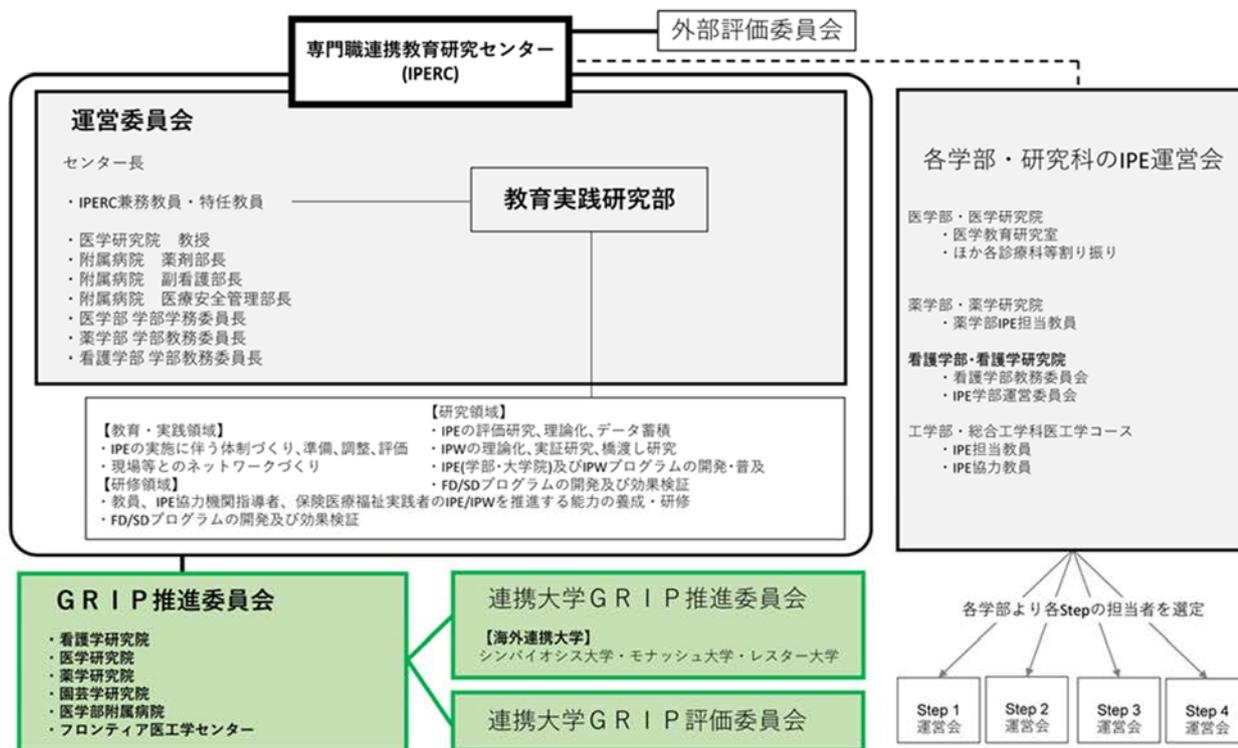
当センターは、看護学研究院の附属機関として位置づけられている。

センター運営委員会は、第1号委員であるセンター長、第2号委員である医学部・看護学部・薬学部の教務担当委員長、その他センター長が必要と認めた第3号委員で構成される。

また、2022年度の文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一つとして、グローバル地域ケア IPE+創成人材の育成（Global & Regional Interprofessional Plus Program: GRIP Program）が採択され、令和4年10月にGRIP推進委員会を発足し、当センターに位置づけた。

下記に組織図を示した。

### I P E R C と 亥 鼻 I P E の 組 織 図



センターには「教育実践研究部会」をおき、研究、教育・実践、および研修活動として、図中に示した活動を行っている。「教育実践研究部」の構成者は、特任教員および関係各学部の兼務教員である。

「教育実践研究部会」は、4学部すなわち看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員、工学部 IPE 担当教員と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。

また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。

センターの事務所管は、看護学部事務部総務第三係が担当している。

令和4年10月に発足したGRIPの事業は、GRIP推進委員会を中心に企画、運営を行っている。

令和6年度(2024年度) センター組織構成者名簿

<IPERC 運営委員会>

第1号委員(センター長)

- ・酒井 郁子(看護学研究院 教授)

第2号委員(医学部・看護学部・薬学部の教務担当委員長) 五十音順

- ・伊藤 彰一(医学部 学部学務委員長)
- ・池崎 澄江(看護学部 学部教務委員長)
- ・中村 浩之(薬学部 学部教務委員長)

第3号委員(その他センター長が必要と認めた者) 五十音順

(あて職による委員) 五十音順

- ・石井伊都子(医学部附属病院 薬剤部長・副病院長)
- ・大塚 将之(医学研究院 教授・医学部附属病院 副病院長)
- ・清水 郁夫(医学研究院 特任教授)
- ・相馬 孝博(医学部附属病院 特任教授・副病院長・医療安全管理部長)
- ・辻野 拓也(看護学研究院 特任助教)
- ・野崎 章子(看護学研究院 講師)
- ・藤澤 陽子(医学部附属病院 副看護部長)

(教育実践研究部:兼務委員) 五十音順

- ・飯野 理恵(看護学部 学部教務副委員長)
- ・石川 雅之(薬学研究院 助教)
- ・井出 成美(看護学研究院 准教授)
- ・伊藤 彰一(医学研究院 教授) ※再掲
- ・臼井いづみ(医学部附属病院 特任助教)
- ・内海 尊雄(薬学研究院 助教)
- ・笠井 大(医学研究院 講師)
- ・齊藤 可紗(看護学研究院 助教)
- ・関根 祐子(薬学研究院 教授)
- ・永島 一輝(薬学研究院 助教)
- ・平田慎之介(フロンティア医工学センター 准教授)
- ・眞嶋 朋子(看護学研究院 教授)

(特任教員) 五十音順

- ・下井 俊典(看護学研究院 特任准教授)
- ・孫 佳茹(看護学研究院 特任講師)

(プロジェクト研究員)

- ・山本 武志(札幌医科大学 准教授)

(GRIP 推進室員) 五十音順

- ・辻野 拓也(看護学研究院 特任助教) ※再掲
- ・野崎 章子(看護学研究院 講師) ※再掲

<GRIP 推進委員会>

(看護学研究院) 五十音順

- ・飯田貴映子 (看護学研究院 准教授)
- ・池崎 澄江 (看護学研究院 教授) ※再掲
- ・石橋みゆき (看護学研究院 准教授)
- ・井出 成美 (看護学研究院 准教授) ※再掲
- ・カズノブ タビット (看護学研究院 助教)
- ・齊藤 可紗 (看護学研究院 助教) ※再掲
- ・酒井 郁子 (看護学研究院 教授) ※再掲
- ・下井 俊典 (看護学研究院 特任准教授) ※再掲
- ・孫 佳茹 (看護学研究院 特任講師) ※再掲
- ・辻野 拓也 (看護学研究院 特任助教) ※再掲
- ・野崎 章子 (看護学研究院 講師) ※再掲

(医学研究院) 五十音順

- ・伊藤 彰一 (医学研究院 教授) ※再掲
- ・鋪野 紀好 (医学研究院 特任准教授)
- ・山内かづ代 (医学研究院 特任教授)

(医学部附属病院)

- ・笠井 大 (医学研究院 講師) ※再掲

(薬学研究院) 五十音順

- ・石川 雅之 (薬学研究院 助教) ※再掲
- ・中村 浩之 (薬学部 教授) ※再掲
- ・関根 祐子 (薬学研究院 教授) ※再掲

(フロンティア医工学センター)

- ・平田慎之介 (フロンティア医工学センター 准教授) ※再掲

(園芸学研究院)

- ・岩崎 寛 (園芸学研究院 教授)

<事務補佐員> 五十音順

- ・高野 佳奈
- ・富永 嘉子

<技術補佐員>

- ・佐野 朋子

<外部評価委員> 五十音順

- ・新井 利民 (立正大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授)
- ・池畑久美子 (千葉県看護協会 教育部長)
- ・川島 啓二 (京都産業大学 共通教育推進機構 教授・初年次教育センター長)
- ・山木 則男 (幕張ベイタウン自治会連合会特別委員会 幕張ベイ・グリスロプラス 代表)
- ・渡邊 秀臣 (高崎健康福祉大学 保健医療学部 学部長)

### 3. 専門職連携教育研究センター規程

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター規程は、令和3年3月に看護学研究院教授会で決定した。

(趣旨)

第1条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、社会のニーズに対応する体系的な専門職連携教育・連携実践を推進するためのプログラムを開発・普及するとともに、我が国及びアジア圏における専門職連携に関する教育、実践及び研究を発展・進化させることを目的とする。

(教育実践研究部)

第3条 センターに、教育実践研究部を置く。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教
- 三 その他の職員

(センター長)

第5条 センター長は、看護学研究院長の推薦により学長が選考する。

2 センター長の任期は、年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を総括する。

(センター運営委員会)

第6条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第7条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの運営に関する重要事項
- 二 その他運営委員会が必要と認めた事項

(組織)

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長
- 三 その他センター長が必要と認めた者

(委員長)

第9条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第10条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第11条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第12条 センターに、外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 センターの事務は、亥鼻地区事務部総務課において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター規程（平成 27 年 4 月 1 日制定）は、  
廃止する。

## 4. 令和6年度(2024年度)事業計画

### ●中長期5か年計画 令和2年～令和6年 (2020～2024)

#### 1) 教育

##### (1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、それぞれの Step を精査し必要なプログラムの開発を行う。それをもって効果的な「亥鼻 IPE」(Step1～5)の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施する。

##### (2) 新たな IPE プログラムの開発

グローバル IPE をプログラム化し、学生間の国際的・学際的相互学習の場を開発する。海外の多様な IPE プログラムの経験値を蓄積し、カリキュラムデザイン研究を発展させる。大学院での IPE プログラムを開発する。この中で災害時の専門職連携実践を進化させるための教育プログラムの開発・普及をする。

##### (3) FD の充実

FD のしきみを確立させ、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

##### (4) 受益者の参加による IPE の発展

患者・サービス利用者等、医療・保健・福祉・介護サービスの受益者が亥鼻 IPE に参加する仕組みを開発する。

#### 2) 実践・社会貢献

##### (1) IPE 研究拠点からの発信

センターで開発した IPE プログラムや研修プログラムを書籍や教材といったプロダクトとして作成し、社会に発信する。またプログラム開発に使用した資料やデータベースの発信・共有をはかる。

##### (2) IPW の促進

専門職連携実践能力の向上を目指した IPW 研修の質を高め、継続して提供する。また、実践現場の課題に即した IPW コーディネーターの人材育成に関する研修プログラムを確立する。

##### (3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

#### 3) 研究

##### (1) IPE 研究の進化

学生の IPE 体験を蓄積し、IPE の理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、IPE の成果に関する国際比較研究に取り組む。その過程で IPE 研究者を育成する。

##### (2) IPW 研究の進化

様々な保健医療福祉介護機関における実践者の IPW 体験や、患者・サービス利用者の満足度や健康アウトカムへの影響を蓄積し、IPW のアウトカム研究に資する理論開発を行う。

#### 4) 組織運営

##### (1) 予算と人材確保

新たな事業費や研究助成金の確保を迫及し、発展的な事業展開ができるようにする。人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用など、幅広く IPE・IPW に関わる研究や実務を担当できる人材の確保を図る。

##### (2) PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

##### (3) IPERC の将来構想

ビジョンとして掲げている「専門職連携学」の構築を目指し、大学院における履修証明プログラムの導入、副専攻の設置などを検討する。

## ●令和6年度(2024年度) 事業計画

### 1) 教育

#### (1) 亥鼻 IPE の発展・進化

- ①形成的評価を行い教育プログラムの課題の明確化と改善を行う。
- ②メディア授業を効果的に取り入れた授業の工夫と改善を行う。
- ③CIPE の試行を実施し必修化を検討する。

#### (2) 新たな IPE プログラムの開発

- ①グローバル IPE のプログラム化を行う。
- ②大学院における IPE プログラムの実施と評価

#### (3) FD の充実

- ①Step 1～4、および CIPE のファシリテーター研修 (FD) を実施する。そのための教材開発を行う。
- ②亥鼻 FD プロジェクトを継続して実施する。
- ③亥鼻 IPE の人材バンクの組織化を図る。

### 2) 実践・社会貢献

#### (1) IPE 研究拠点からの発信

- ①国内外の大学や専門学校における IPE カリキュラムの開発と運営に関して、IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修や、コンサルテーション活動を通じ、IPERC が蓄積したカリキュラムマネジメントおよびFDの知見を広く周知する。
- ②IPE プログラムや研修プログラムについて書籍や教材、資料、データベースの発信に努める。

#### (2) IPW の促進

- ①IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修を実施する。
- ②大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。
- ③大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。
- ④千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施する。
- ⑤保健医療福祉各種機関からの要請に応え、様々な現場での多職種協働実践能力向上のための研修に協力する。

#### (3) 政策提言

- ①専門職連携教育・専門職連携実践に関わる制度やしきみについて、提言していく。

### 3) 研究

#### (1) IPE 研究の進化

- ①医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポートを行う。
- ②IPE における学生の体験や現場の実践者の IPW 体験を蓄積し、IPW, IPE の理論化に取り組む
- ③研究成果を発信する。

### 4) 組織運営

#### (1) 予算と人材確保

- ①研修事業による自己収入を図る
- ②新たな事業費や研究助成金などの確保を図る
- ③人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用などの可能性を検討する

#### (2) PDCA サイクルに基づく組織運営

- ①年間事業計画の策定と実施、評価を行う
- ②外部評価委員会による評価を受け運営に反映させる
- ③運営委員会を開催する
- ④教育実践研究部会を開催する

#### (3) IPERC 将来構想の具現化

- ①IPERC を含む総合教育棟の概算要求

②GRIP 採択に伴う博士前期課程副専攻国際実践学の開始に伴い、IPE 関連の新設科目の実施評価を行う。

### Ⅲ. センターの取り組みと成果

「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」4つの柱に沿って中長期目標を見出しとして、令和6年度(2024年度)の取り組みと成果を述べる。

#### 1. 教育

##### 1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の目的は、「患者・サービス利用者中心の医療」を担う「自律した医療組織人の育成」である。

亥鼻 IPE の学習到達目標は、以下の表のとおりである。貢献力・調整力に大別された専門職連携実践能力を段階的な学習プログラムの中で身につけることが目標となっている。

表 専門職連携実践能力と Step ごとの学習到達目標

	Step1	Step2	Step3	Step4
専門職連携実践能力	専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力を身につける。Step1の終了時、学生は以下のことができる。	チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力を身につける。Step2の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力を身につける。Step3の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。Step4の終了時、学生は以下のことができる。
I. チームの目標達成のための行動	チームの取り組みと成果を説明できる	チームの目的達成に向け、自分の行動を調整できる	チームの目標達成のために、チーム内の対立を解決できる	チームの目標達成のために、チーム状況を評価し、自己の実践を決定できる
II. チーム運営のスキル	チームメンバーそれぞれの専門領域の役割機能を理解し尊重できる	チームづくりに必要な基礎知識とスキルを理解し、自分のチームに活用できる	対立及び対立の解決について説明でき、チームで生じている対立に気づくことができる	チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいてチームメンバーと協力できる
III. チームの凝集性を高める態度	チームメンバー、他の専門職及び教員と肯定的なコミュニケーションをとることができる	他の専門職や教員、チームメンバーと、チームの目標達成のために有効なコミュニケーションをとることができる	患者・サービス利用者の治療ケアのあり方について、チームメンバーと率直に話し合うことができる	チームメンバーおよびかわる多様な専門職と、良好な人間関係のもと、話しやすい雰囲気を作ることができる
IV. 患者を尊重した治療・ケアの提供	患者・サービス利用者とのコミュニケーションから、患者・サービス利用者の体験と希望を理解できる	医療福祉サービスおよび行われているケアを患者・サービス利用者の自律および自立の観点から説明できる	複数の問題解決案の中から、患者・サービス利用者らの意思を尊重した最も良い方法を、チームとして選択できる	患者・サービス利用者への全人的評価に基づいた退院計画を、チームとして立案できる
V. プロフェッショナルとしての態度・信念	専門職として成長するために何が必要かを考えることができる	実際に行われているケアの根拠と理由を(説明を受けて)理解できる	学生の立場から専門職としてあるべき姿を考えることができる	専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識を退院計画に反映できる
VI. 専門職としての役割遂行	チームの目標達成のために自己の責任を果たすことができる	医療、保健、福祉の場における各専門職の役割機能を説明できる	学生として現在保有している専門的知識と判断に基づいて、チームメンバーに意見を述べるることができる	自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を学生の立場から説明できる

以下、令和6年度(2024年度)の実績を述べる。

#### (1) 教育プログラムの課題の改善

令和6年度は、昨年度に続き、Step3は完全オンライン、Step1・2・4については、講義はオンライン、グループワークは対面形式で開催した。Step1~4までの参加学生数、協力教員数などのデータを(資料1)に示す。

各ステップにおいて以下の改善を図った。

##### 【Step1~4 共通】

- 全ステップの学習成果発表会の評価結果のオンライン評価入力システムを Teams に統一した。評価担当教員が直接オンライン上で直接入力でき、当該作業の記入漏れと提出の負担の軽減・IPERC 側の回収・集計の効率が向上した。特に評価対象項目数の多い Step1 において、成績参考資料の送付がいつもより早めることができた。

- ・各 Step において、グループワーク時、各教室の担当教員がグループワークのフォローがしやすいように、チェック用紙を用意することで、教室にいる教員のチェック作業の実施のしやすさを目指した。
- ・IPERC 運営の教員と各教室（各学部からの協力教員）の業務配分を見直した。IPERC の一斉配信を減らし、教員マニュアルでは、時程ごとに IPERC/教室の教員の役割を明記することにより、混乱なく、教室の教員も業務を進めることができた。

### 【Step1・2】

- ・昨年度の授業評価アンケートの改善を図るため、5月から7月末にかけて、日中気温の上昇変化が激しいため、6月より亥鼻同窓会館から医学部に教室を変更した。学生より今年度は会場についての指摘がなくなった。

### 【Step1】

- ・「当事者の体験を聞く回」では、講演に共同ワークを導入した。講演者には事前に学生の感想ワークシートのリンクを共有し、講演中もリアルタイムで学生の書き込みを確認できるようにした。これにより、学生は3時間の講演をただ聞くだけでなく、短時間のグループワークを通じてインタラクションを図ることができ、会場で講演を聴く意義をより実感できるようになった。
- ・患者インタビューは Microsoft Teams を使用しオンラインで実施しているが、患者側の接続に時間がかかることがあった。そこで、リンク作成方法を工夫し、患者側のアクセスを迅速かつ確実にできるよう改善した。
- ・第5回の教員によるユニットの共同作業の個別評価では、一枚の評価シートで8~9人の学生を評価できるよう、レイアウトを工夫した。さらに、Teams 上で評価結果を直接入力できるシステムを構築した。

### 【Step2】

- ・今年度より、従来フィードバックについてのグループワークであった GW2 を「Step1 での学びの共有と Step2 に向けて」として、Step1 と 2 の連続性・階層性を強調する設計とした。来年度は、オリエンテーションなどで、Step4 までの全体像をより解説することが必要ではないかと考える。

### 【Step3】

- ・Step3 は冬期開講による感染症対策も考慮し、オンライン形式にて開講した。
- ・初日のグループワーク 2-①において、学生からのワークシート確認要請が短時間に集中し、ロジスティクスが過負荷となる場面があったが、今年度は学生から教員への確認要請をダイレクトに伝えられるシステムを構築することができた。それによって、全体的に運営がスムーズになり、かつ教員同士もお互いに進捗状況を確認しつつ、作業を進めることができた。
- ・Step1 からの連続性・階層性については、対立という「実際的な内容」についての学びについての意見が複数あった。
- ・コース設計については、薬学部の試験期間と最終レポートの提出期間が重なるので、提出期間を検討してほしいという要望が複数あった。

### 【Step4】

- ・各症例の点検を行い、適宜更新を行った。
- ・医学部の講義室とグループ学習室 1・2 を模擬患者待機室用に変え、
- ・医学部新棟に運営本部を設置し、教育施設の利用を一か所に集約することができ、効率的な運営が図れた。
- ・専門職とのコンサルテーションはオンライン同時双方向形式で実施した。コンサルタント側の便宜を図るため、医学部グループ学習室を一部アクセス場所として確保した。
- ・専門職とのコンサルテーションでは、時程が伸びたグループに対して、個別の説明を行う工夫を行った。スムーズに運営につながった。

## (2) 形成的評価による次年度に向けての改善課題

今年度の授業評価アンケートから、改善すべき箇所について、学生より以下の指摘があり、次年度の事業に向けて改善を検討していきたい。

### 【Step1】

- 工学部生のワクチン接種に関する疑問：患者とのふれあい体験がオンラインで実施されるため、工学部生の中には抗体検査やワクチン接種の意義について疑問を抱く声があった。ワクチン接種の目的や意義について、事前の説明を充実させる必要がある。
- 工学部生より実施学年をそろえてほしい声がある。学年が上のため、グループワークでは自然にリーダー役を期待されてしまうことがある。学年の変更が難しい場合、グループワークの指導で、学年問わず、全員積極的にかかわることを指導していきたい。
- 事前学習の負担軽減：事前学習に関して、Moodle 上での資料公開をより早めてほしいという要望があった。学生の準備時間を確保するため、公開スケジュールの見直しを検討する必要がある。
- グループワークの負担分配と教員の関与：グループワークにおいて作業負担の不均衡に悩む学生が見られた。また、教室担当の教員がより積極的に関与してほしいという意見があった。教員の介入のタイミングについて、改善の余地があると考えられる。
- グループワークの時間配分：患者ふれあい体験の終了後、発表会までのグループワークの時間を余らせてしまう学生がいる一方で、発表会準備の時間が不足していると感じる学生もいる。グループワークのタスク設計や時間配分の適切性について、再検討が求められる。
- 学習成果発表会の形式見直し：スライド枚数やテーマの制限を緩和してほしいとの要望があり、現在の制約下では結論がほぼ同じになってしまうとの指摘があった。学生が自らのアイデアを適切に表現できるよう、発表形式の基準設定について再検討する必要がある。

### 【Step2】

- Step1 からの連続性・階層性については「Step1 よりもそれぞれ専門分野に関する知識や役割の理解が深まっていたので、Step1 のときより話し合いが有意義なものになったと思う。」(看護学部) という意見がある一方で「step1 との違いがあまりわからなかった。」という意見もあった。
- グループワークでは「ただ乗り (free rider)」の出現についての意見が複数あった。
- コース設計については、グループワークの時間が長く余らせてしまう、薬学部については、試験期間と最終レポートの提出期間が重なるので、提出期間を検討してほしいという要望が複数あった。

### 【Step3】

- 最も多い意見は、学生が昨・今年度経験した対面形式に比べ、オンライン形式でのグループワークや意見交換の難しさや違和感であった。
- Step3 は玄鼻 IPE の中で、唯一メディア授業と位置付けている。このため最終レポート課題を、従来の「玄鼻 IPE Step3 で学んだこと」から、1) 対立の解決について学んだこと、2) 対面・オンライン両形式でのコミュニケーションの特徴 (長所と短所)、3) 1・2) を今後の専門職行動にどう活用することができるか、と構造化することで、学びを深化させることができるのではないかと考える。

### 【Step4】

- CBT との日程調整：医学部の CBT と開催日程が近いこと、IPE グループワーク中に CBT の勉強をしている学生がいたという指摘があった。医学部生からは Step4 の開催日程の見直しの声がある。日程の見直しが難しい場合、事前学習資料の早期提供・医学部生にタスクマネジメントの指導を検討する必要がある。
- 時間配分の調整：1 日目の患者面接 (2 回目) の準備時間が不足しているとの意見があった一方で、2 日目のグループワークの時間が足りないという声も複数あった。授業時間外に調査課題が発生し、学生にとって負担が大きいとの指摘もあるため、患者面接の準備ワークの分量や全体の時間配分を再考することが求められる。
- 発表症例数の増加：グループ発表会において、各部屋で発表される症例が 2 つに限られていたため、より多くの症例を知る機会を増やしてほしいという要望があった。発表の形式や症例の共有

方法について工夫が必要である。

- ・ 模擬面談の評価方法の明確化：模擬面談に関する評価方法について、学生から詳細な説明を求める声があった。評価基準やフィードバックの方法について、事前に学生へ周知を行うことが重要と思われる。

### (3) CIPE (クリニカル IPE) の試行および CIPE の必修化の道筋の明確化

- ・ 附属病院 4 診療科\*4 病棟において、同年 7 月 22～26 日の日程で診療参加型 IPE (CIPE) を開講した。当該実習には、合計 6 グループ 20 名 (医学部 5 年生 6 名、看護学部 4 年生 8 名、薬学部 5 年生 6 名) が参加し、医師 6 名、看護師 6 名 + α、薬剤師 13 名が指導に協力した。  
※救急科集中治療部、糖尿病代謝内分泌内科、消化器内科、血液内科
- ・ 学習評価(12 項目)、他職種間連携行動 (13 項目) についての自己評価アンケート (5 段階リッカート・スケール: そうである～そうでない) では、15 名の学生から回答があった (回答率 75.0%)。「そうである」、「まあそうである」を合わせた回答が、それぞれ 90.6%、81.5%であった。
- ・ 2018, 2021 - 2024 年の 5 年間に CIPE を履修した 137 名を対象とした上記の自己評価アンケート結果について取りまとめた結果、CIPE の学習効果や参加学生の他職種間連携行動は、年度や所属学部による学生の非等質性に影響されないことが、おおむね担保されることが明らかとなった。本研究結果については、第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会にて発表した (3-1) (3) 項)。
- ・ 試行事業としての CIPE は、本年度をもって『臨床実習・臨床実習におけるクリニカル IPE 拡充のためのモデル病棟/地域病院構築 (通称「デイリー IPE」)』への発展的終了となった。

## 2) 新たな IPE プログラムの開発

### (1) グローバル IPE のプログラム化

#### ① GRIP

- ・ 令和 4 (2023) 年度、本学の GRIP Program (「グローバル地域ケア IPE プラス創生人材の育成 (Global & Regional Interprofessional Plus Program)」が文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の 1 つとして採択され、同年 10 月から始動した。
- ・ この事業の目的は、SDGs の開発目標 3「すべての人に健康と福祉を」を実現し、WHO が提唱する Universal Health Coverage「全ての人々が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の推進のために、地域ケアを創生する人材を育成することである。
- ・ インド、オーストラリア、イギリスを相手国とし、地域ケア創生に関わる全学部および全大学院が参加し、国際的な「地域ケア創生ネットワーク」を構築することを目指すものである。医療系だけでなく、多分野の学部学生、大学院生を対象とした国際的な IPE プログラムを含んだプログラムである。

#### ② BMX

- ・ 本学、関西大学 (代表校)、東北大学の 3 大学合同事業「Blended Mobility Project (BMX) で生み出す『Society 5.0 人材』の育成とそのインフラの創出」が、文部科学省の令和 5 (2023) 年度の「大学の世界展開力強化事業・米国等との大学間交流形成支援」の 1 つとして採択された。
- ・ 当該事業では、「自身の社会的・環境的正義を強く意識した上で言語、文化、価値観の異なる他者と協働し、専門的知見に基づいた実効性のある提案で、持続可能な社会の発展と世界平和に寄与できる次世代グローバルリーダーを育成」することが目的となっている。
- ・ 千葉大学看護学部としては、当該事業を COIL の後継事業に位置付け、5 年間のアラバマ大学、シンシナティ大学との看護学生同士の交換留学体制を構築する。
- ・ IPERC としては、国際交流大学の拡充を念頭に、当該事業とグローバル IPE の連続性を模索するため、令和 6 (2024) 年 9 月のシンシナティ大学への学生派遣に下井特任准教授が帯同した。

#### ③ ガジャマダ大学留学生 (大学院生) との IPE/IPW ワークショップ開催

- ・ 2024 年 11 月、ガジャマダ大学から大学院生 14 名と教員 5 名が千葉大学看護学研究院を訪問し

た。7日（木）14:45～16:00に、IPERCは受け入れプログラムの一環として、インドネシアにおける多職種連携（IPW）の推進に向けたワールドカフェを企画・開催した。IPERCの教員全員がスタッフとして参加し、会場ではガジヤマダ大学の教員と院生が自国のIPWおよびIPEに関する認識を共有しながら、インドネシアにおける現状を把握し、理想的な多職種連携教育（IPE）の在り方について議論を深めた。参加者は積極的に議論に参加し、有意義な時間を過ごした。

#### ④ 亥鼻 IPE の外国人留学生の受け入れ

- ・ 2024年7月8日から19日まで、千葉大学看護学部主催の交流プログラムに、従来の台北医学大学（3名）に加え、新たに台湾大学（3名）・香港大学（2名）が参加し、計8名の留学生が来日した。本プログラムでは、以下の活動を通じて、多職種連携教育（IPE）に関する理解を深めた。まず、亥鼻 IPE プログラムの学習として、①亥鼻 IPE Step2 発表会の見学、②亥鼻 IPE の紹介、③亥鼻 IPE Step3 の講義（一部）受講およびワークショップ参加、④留学生による香港・台湾における IPE・IPW の現状に関するプレゼンテーションを実施した。次に、大学病院における多職種連携の理解を深めるため、千葉大学医学部附属病院看護部の協力のもと、総合診療部を訪問し、大学病院における多職種連携の実際を学んだ。さらに、看護学と工学の連携に関する応用研究の学習として、平田慎之介准教授の協力のもとフロンティア医工学センターを見学し、最先端の応用研究を体験した。また、看護学研究院の両宮歩講師の研究室を訪問し、院生との交流も深めた。本プログラムを通じて、留学生は日本の IPE・IPW の現状を学ぶとともに、自国の視点を共有することで、相互に多職種連携に関する理解を深める貴重な機会となった。

#### ⑤ 台湾大学との IPE プログラム開発

- ・ 【学生レベル】2025年3月10日～14日にかけて、千葉大学看護学部生1名および看護学研究院生2名を、台湾大学主催の交流プログラムへ派遣した。最終日（5日目）のプログラムでは、台湾大学側が IPE および IPW に関するセッションを企画し、学生同士の交流を通じて IPE/IPW について意見交換を深めることができた。
- ・ 【教員レベル】2025年3月13日には、酒井センター長・井出准教授・齊藤助教・下井特任准教授・孫特任講師が台湾大学を訪問し、IPE プログラムの開発の可能性について、引き続き協議を行った。台湾大学看護学部の教員より、亥鼻 IPE Step3 に対する関心が示されているため、2025年度の Step3 プログラムの実施日程を含め、亥鼻 IPE 全体についての紹介を孫特任講師が行った。

#### ⑥ 台北医学大学との IPE プログラム開発

- ・ 【学生レベル】2025年3月10日～21日の日程で、台北医学大学看護学部主催の交換留学プログラムに、千葉大学看護学部生1名および大学院生1名（計2名）を派遣し、台湾の看護事情を中心に学んだ。また、大学院生の学習ニーズに応じ、台湾における看護師と看護補助者の連携に関する特別指導が、台北医学大学の林秋芬教授より提供された。
- ・ 【教員レベル】2025年3月14日には、酒井センター長・井出准教授・齊藤助教・下井特任准教授・孫特任講師が台北医学大学を訪問し、IPE プログラムの開発の可能性について引き続き協議を行った。台北医学大学看護学部荘宇慧教授のご尽力により、台北医学大学附属病院である萬芳病院を見学し、シミュレーション教育 IPE のプレゼンを聞いた。先方から亥鼻 IPE への見学依頼があり、2025年5月に先方の担当教員の見学受入に向けて準備を進めることになっている。

## （2）大学院における IPE プログラムの開発

### ① 「専門職連携実践論」「専門職連携教育論」

大学院看護学研究院の千葉大学大学院共通科目として位置づけられた「専門職連携実践論」「専門職連携教育論」を開講した。「専門職連携教育論」では、海外の IPE・IPC 関連の文献を読み、ディスカッションポイントをもって参加する討議形式の授業を持った。「専門職連携実践論」では、専門職連携の基礎的知識の教授と共に、IPC に活用できる連携スキルのオンライン演習を行った。

## ② 大学院副専攻プログラム

世界展開力強化事業 GRIP により大学院の副専攻プログラム「大学院国際実践教育」の 2 年目を迎えた。IPE 関連科目 3 単位「専門職連携基礎」「専門職連携実践 1」「専門職連携実践 2」を開講した。

## (3) その他

- ・ 千葉大学普遍教育科目の国際発展科目群、国際科目「国際保健と UHC(Universal Health Coverage)」のうち、講義「健康の決定要因」「ヘルステックの役割と事例」「援助の基盤となる利他」「専門職連携教育・実践」を下井特任准教授、「社会的決定要因としての社会教育」「文化的謙虚さ Cultural Humility に関する社会教育」を孫特任講師が担当した。
- ・ 地域科目（基礎）「チームで取り組む地域活動入門」にて、講義「チームとは」「チーム活動とは」を井出兼務教員が担当した。

## 3) FD の充実

### (1) 亥鼻 IPE のファシリテーター研修の実施

- ・ Step1~4 および CIPE のファシリテーター研修 (FD) は、主にオンラインにて実施した (同時双方向型およびオンデマンド型の併用)。研修実施に伴い、FD 資料の改編を行った。
- ・ Step1・3・4 においては、メールを通じて①教員向け説明資料の送付、②FD 動画のリンク共有、③担当教員からの質疑への適宜対応を行うことで、FD を実施した。
- ・ Step2 では、5 月 16 日 (木) 17:30~18:30 Zoom にて FD を開催した。出席者は 43 名 (主催側 IPERC 3 名と薬学部教員 1 名含む) で、専門職は 39 名参加した。専門職の内訳は、附属病院関係者 13 名、外部実習機関実習担当者 26 名であった。欠席者へは、FD の実施内容を録画した動画を共有し、各自視聴するよう対応した。

### (2) 亥鼻 FD プロジェクトの継続実施

- ・ 令和 7 年 3 月 4 日 (火)、千葉大学医学教育研究室および総合医療教育研修センターの笠井大先生を講師として迎え、「生成 AI を活用した授業設計」として、生成 AI の説明や活用例についての講義、ならびに生成 AI を使用した演習を開催した。

### (3) 亥鼻 IPE の人材バンクの組織化

- ・ IPERC 主催の IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修や IPW ベーシック研修・IPW マネジメント研修などを通じて、IPE・IPW に高い関心を持つ人材が集まり、IPE・IPW の学習を継続し、スタディグループへの参加や、亥鼻 IPE の協力者としての参加があった。
- ・ 学内の教員の協力体制の組織化は、各学部でのルールに基づきシステム化されている。
- ・ 山本武志准教授 (札幌医科大学) がプロジェクト研究員を継続した。

## 2. 実践・社会貢献

### 1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を推進してきた経験やそこから得られた知見を様々な形で発信し、日本のそして海外諸国の IPE の発展に寄与することを目的として、以下の事業に取り組んだ。

#### (1) IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修やコンサルテーション活動を通じた蓄積した知見の周知

##### ① IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修

令和 6 年(2024 年)8 月 24 日(土)・11 月 23 日(土・祝)の 2 日間コースで、IPE カリキュラムマネジメント・授業開発研修を計画した。本研修は、医療保健福祉の専門職の養成に携わる教員が、専門職連携教育の実装に向けて必要なカリキュラムマネジメント能力および基礎的な授業開発を高めることを目的としている。(資料 2) のとおり本年度は参加申し込みがなかった。コンテンツの見直し、周知方法の改善等検討していく予定である。

##### ② 各大学・教育機関からの FD・講演・授業の依頼

- ・岐阜大学大学院医学系研究科医療者教育学専攻修士課程にて、Theme1「教育の多様性の広がり」内 Unit1「医療における多職種協働と地域連携」のスクーリングの講師(4 月 10~12 日)、ならびに授業「IPC に必要な社会心理学理論と IPE に必要な学習理論」(4 月 25 日、オンライン)を下井特任准教授が担当した。
- ・栃木県立小山高等学校より本センターに、令和 6 年度進路探求プログラムのインターンシップ対象校としての依頼があった。当該プログラムは、同校 2 年生を対象に、進路選定に探求的活動を導入し、主体的に進路を選択できるようになることを目的としたものである。本センターは「保健医療専門職連携教育学」系統のインターンシップ対象校隣、11 月 1 日に第 1 期目となる生徒 1 名のインターンシップを受け入れた。

##### ・群馬大学より IPE トレーニングコースの講義依頼

2024 年 8 月 20 日から 23 日に実施された第 11 回群馬大学 IPE トレーニングコース(趣旨:西太平洋地域を中心とした途上国における多職種連携教育のカリキュラム策定および改善を目的とした教育者向けトレーニングコース)の一環として、8 月 21 日に孫特任講師が講演を行った。

「Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE」と題し、2024 年度の最新の実施状況を反映しながら、亥鼻 IPE 全体の概要および IPERC の運営方法について講演を行った。講演後には、会場から多くの質問が寄せられ、活発な議論が交わされた。本コースには、フィリピン、ベトナム、インドネシア、タイ、マレーシア、韓国の計 6 か国から 28 名の専門職が参加した。

##### ③ 学会での講演・シンポジウム

- ・第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会(11 月 10 日、埼玉県立大学)のシンポジウム 1「専門職連携教育の地域社会への展開~IPE から IPW へ~」において、井出准教授が「諸機関と共に創る IPE の地域展開」というテーマでシンポジストを務めた。  
また、シンポジウム 2「災害時の生活支援と専門職連携」において、酒井センター長が「大学院教育における災害時専門職連携演習」というテーマでシンポジストを務めた。
- ・第 18 回全国大学理学療法学会大会(令和 7 年 3 月 29 日、茨城県立医療大学)のシンポジウム 2「多職種連携教育の進化に向けた実践報告」において、下井特任准教授が「2 大学 3 キャンパスでの IPE 経験から考える IPE のインストラクショナル・デザインとロジスティクス」というテーマでシンポジストを務めた。
- ・2025 年 3 月 9 日に千葉大学専門職連携教育研究センターならびに GRIP 推進室では「サービスラーニング×IPE が拓く協働の未来」というテーマで国際フォーラムを開催した。フリーステート大

学・シンビオシス国際大学・カタール大学・ハノイ医科大学・ガジヤマダ大学・レスター大学から IPE の専門家が集まった。孫特任講師が Par1 「各国で展開されている IPE の課題報告と共有」 では「Implementation Status and Challenges of IPE in JAPAN- From the Perspective of Contribution to Society (Social Implementation)」について報告した。下井特任准教授が Part2 「IPE とサービ斯拉ーニング（専門家集団の学びの孤立化の解決策としてのサービ斯拉ーニングとその評価）」のディスカッションでは、IPE とサービ斯拉ーニング（SL）との接点や展開を考える上でのポイントを提起した。

- ④ その他の講演・研修・コンサルテーション活動（以下 4 件巻末資料参照）
- ・公益財団法人テクノエイド協会が主催する「福祉用具プランナー管理指導者養成研修」（5 月 17 日、東京都新宿区）にて授業「医学一般（専門職の役割と連携・協働のあり方）」を下井特任准教授が担当した。
  - ・第 34 回自治労都区・政令市共闘会議民生部会総会（6 月 21 日、千葉県千葉市）にて、記念講演「職場のコミュニケーション・スキル」を下井特任准教授、孫特任講師が担当した。
  - ・宮城県看護協会が主催する「高齢者ケア施設で働く看護管理者研修会Ⅱ」（8 月 21～22 日、宮城県仙台市）にて講義・ワークショップ「組織マネジメント」「チーム・マネジメント」を酒井センター長、井出准教授、下井特任准教授、孫特任講師が担当した。
  - ・2024 年度全国リハビリテーション学校協会教員研修会（9 月 28 日、東京都港区）にて「学習者中心の授業を作ってみよお ～インストラクショナル・デザインに基づいた教育設計」というテーマの講義ならびにワークショップを下井特任准教授が担当した。  
また、同研修会の web 授業「インストラクショナル・デザインって何だ」（令和 7 年 2～3 月配信）でも下井特任准教授が講師を務めた。
  - ・千葉県看護協会が主催する「第 23 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル」（10 月 9 日、千葉県千葉市）にて教科目「ヘルスケアシステム論Ⅱ」の単元「ヘルスケアサービスにおける多職種連携」を井出准教授、下井特任准教授、孫特任講師が担当した。
  - ・千葉市地域連携室連絡会より依頼を受け、第 19 回（11 月 20 日）と第 20 回（令和 7 年 2 月 19 日）の同会（オンライン開催）にて「多職種連携の課題解決方法を学ぼう」というテーマの講義並びにワークショップを酒井センター長、井出准教授、下井特任准教授、孫特任講師、齊藤助教が担当した。
  - ・国立病院機構本部が主催する「令和 6 年度リハビリテーション領域における業務改善の考え方研修」（令和 7 年 1 月 30 日、東京都目黒区）にて講義「多職種連携に必要な人材育成」を下井特任准教授が担当した。
  - ・国立障害者リハビリテーションセンターが主催する「令和 6 年度看護研修会【リハビリテーション看護コース】」（令和 7 年 3 月 22 日、オンライン開催）にて、酒井センター長、井出准教授、下井特任准教授、孫特任講師、齊藤助教が担当した。

## （2）IPE プログラムや研修プログラムについての書籍や教材、資料、データベースの発信

- ・雑誌『理学療法』（メディカルプレス社）の講座「多職種連携実践と多職種連携教育」（全 15 回）の第 9 回「国内外における多職種連携教育の動向」（42 巻 2 号、令和 7 年 2 月発行）を下井特任准教授が担当・執筆した。
- ・『WHOCC Annual Report』（群馬大学 WHO 協力センター年次報告書）の作成に協力するため、IPERC の活動として、①IPE に関連する論文・研究発表、②海外の教育者や実践者を対象とした IPE 関連研修の開催について報告した。
- ・「令和 5 年度 大学の世界展開力強化事業（補正予算事業）～ASEAN 諸国からの留学生受け入れ・定着促進のためのシステム構築等支援～」の一環として、千葉大学博士課程への ASEAN 諸国からの留学生増加を目指し、看護学研究院では、JV-Campus に掲載する「リビング・ヘルスケア」と

「地域ヘルスケア」の2科目（それぞれ全13回）において、博士前期課程レベルのコンテンツを作成することとなった。IPERCでは、この取り組みにおいて新たに以下の動画教材を作成し、提供した。

- ◇ 井出准教授担当：「地域包括ケアシステムと介護保険制度」「地域包括ケア計画」「在宅医療・介護連携推進事業」「地域共生社会における連携と協働」
- ◇ 下井特任准教授担当：「利他と自律」「チームとは：専門職連携の促進要因・阻害要因」「リーダーシップ」「地域医療介護連携ネットワークの構築・機関間連携」
- ◇ 孫特任講師：「健康の決定要因と社会教育」「多職種連携の基本的枠組」「当事者ととも作る地域共生社会 社会教育と社会変革」「アジアにおける医療介護制度の概観」

### （3）日本保健医療福祉連携教育学会（JAIPE）への協力

- ・ 酒井センター長が同学会副理事長および国際委員長、下井特任准教授が事務局長および総務委員長、IPE推進委員を務めている。
- ・ 国際的ネットワークである「IPE Global」、アジアのAPIPEC（Asia Pacific Interprofessional Education and Collaboration Network）に対して、JAIPEは本邦を代表するIPE・IPC学会としての発信・インパクトが少ないことが指摘されている。IPERC、千葉大学はGRIP、BMXを通じて国際展開力を有していることから、酒井センター長が委員長を務める国際委員会は、本邦のIPE・IPC教育機関の代表として、JAIPEの国際発信力への提言と支援をしていく計画である。

## 2）IPWの促進

### （1）IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修の実施

#### 【目的】

- ・ IPW ベーシック研修の目的：医療・保健・福祉・介護の各種機関で働く専門職連携を推進するための課題を持った実践者が、専門職連携実践の推進に必要な基礎的能力を高めることを目的とする。
- ・ IPW マネジメント研修の目的：医療保健福祉の実践現場で専門職連携を推進するための課題を持った指導的立場・管理的立場の者が、専門職連携実践の推進に必要なマネジメント能力を高めることを目的とする。本研修において、医療と介護の連携やチーム医療が求められている日本の現状を踏まえ、実践の現場でのIPW推進に向けた現任者研修計画案あるいはマネジメント計画案を立案・実践・評価する。

#### 【プログラム】

- ・ 【理論編】はe-learningシステムを構築し、「専門職連携の基礎的知識」「チームについて」「対立の解決のアプローチ」の3つの講義動画を作成し、受講者が自己学習できるように整備した。
- ・ 【実践編】は、WHOの専門職連携実践能力の学習到達目標に沿って、下記5つのコースを設置し、プログラムを改善し、教材を整理した。
  - 1) 職種間の理解：他職種間でお互いの専門性や職務を理解し、協働ワークを通じて連携実践能力を習得する。
  - 2) チーム内の効果的なコミュニケーション：自身のコミュニケーションの傾向と課題を知り、適切な意見伝達スキルを習得する。
  - 3) チームワークの促進スキル：チームメンバーのチームへの貢献やチームビルディング、リーダーシップフォロワーシップの能力を高める。
  - 4) 多職種カンファレンス：多職種カンファレンスにおける基本動作を習得する。
  - 5) 対立の解決：専門職間や専門職と患者・利用者間で起こりうる対立の構造を理解し協調的な解決が図れる解決の方法を学ぶ。

#### [学習成果]

- ・各研修の受講者は（資料2）のとおりである。本研修の受講者の学習ニーズをとらえるため、所属機関の種類・職種・所属先のある都道府県に分けて、受講者の状況を整理した。
- ・IPW 実践編の実施直後のアンケートでは、とても満足 60.0%、満足 40.0%であった。

### (2) 千葉大学医学部附属病院の新人研修や現任教育 IPE プログラムへの貢献

- ・4月1日(月)、医学部附属病院新人研修を、附属病院の総合医療教育研修センターおよび看護部と協働して実施した。IPERC は IPW の単元を担当した。
- ・8月1日(木)、総合医療教育研修センターの特定行為研修におけるチーム医療演習に協力し、情報伝達スキル、カンファレンスの基本動作、対立の解決のストラテジーについて演習を実施した。
- ・医師と看護師合同の採血演習に協力した。

### (3) 千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施

[目的] 認知症の人と家族の支援に携わる医療・介護・福祉等の専門職同士が、認知症に関わる現状や知識・情報を共有するとともに、お互いの役割や活動内容等を理解し、連携をとり協働しやすい関係を作ることである。

[概要] 令和6年12月21日(土)と令和7年1月13日(月・祝)の2回実施し、126名が参加した。

#### [プログラム]

- 1) オリエンテーション
- 2) 講義「認知症の人の理解とケア」
- 3) 講義「専門職連携実践の基礎知識」
- 4) ワークショップ「アイスブレイク私の仕事紹介」
- 5) ワークショップ「効果的な情報伝達スキル」
- 6) ワークショップ「多職種カンファレンス」

[講師] 酒井センター長、諏訪看護学研究院長・教授、井出准教授、下井特任准教授、孫特任講師、齊藤助教

#### [成果と課題]

- ・本年度も昨年度に引き続き、対面形式にて開講した。
- ・受講者を対象とした事後アンケート結果（回答数 122 名、回答率 96.8%）より、各コンテンツ別の満足度については「とても満足」「満足」が 92.6～99.2%を占め、高い満足度が得られた。特に他職種との対話、ネットワーク構築・情報交換がその場でできたことについて肯定的な意見があった。
- ・一昨年度までのオンライン形式から対面形式となったことの評価がある一方で、対面形式となったことで遠方からの参加者の減少、当日キャンセルの増加につながっていることが推察された。

### (4) 保健医療福祉各種機関での多職種協働実践能力向上のための研修への協力

- ・IPERC 教員が実施した社会貢献活動を（資料3）に示す。

### (5) 産官学民連携

#### ① 「うたせ認知症を考える会」との連携

- ・昨年度に続き、「打瀬認知症を考える会」（2015年10月より千葉市幕張ベイタウンに設立された地域住民ボランティア団体）に、千葉大学看護学部の交換留学プログラムのフィールド先としてご協力いただいた。2024年7月10日には、香港大学・台湾大学・台北医学大学からの留学生計8名を受け入れていただいた。該当会代表の山木則男氏をはじめ、黒澤氏、櫻木氏、中舘氏らのメンバーから、うたせ認知症を考える会の活動について、英語と中国語による説明講義が行われた。その後、ベイタウンカフェの活動拠点を見学し、月に一度のイベントにも参加した。留学生たちは、日本の地域包括ケアシステムの実情や認知症カフェの取り組みを実際に体験しながら学ぶことができた。

尊厳をもって老いを迎えることの意義を実感し、大変実りのある学びの機会となった。

### 3) 政策提言

#### (1) 健康関連専門職の基礎教育課程における専門職連携教育に関わる科目の開設や制度化への提言

- ・前年度および今年度、一般社団法人日本看護系大学協議会（JANPU）が文部科学省より受託して「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定に向けて調査研究」が行われた。酒井センター長が、有識者意見調査に協力した。さらにパブリックコメント等を踏まえて、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定修正案」を作成するための看護実践能力評価基準検討委員会の特別ワーキングメンバーとして参加し、特に連携協働能力に関するカリキュラム案について意見を提言した。

## 3. 研究

### 1) IPE 研究の進化

#### (1) 医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート

- ・酒井センター長が定期的あるいは不定期に、各学部の教員の IPE 研究の助言指導を行い、論文公表への支援を行った。
- ・他大学の教員も参画し、IPE 研究、IPW 研究に関するスタディ・ミーティングを月 2 回のペースで実施した。
- ・IPERC 運営教員および IPERC 特任教員の科学研究費補助金獲得は、合計 5 件である。一覧を（資料 4）に示した。

#### (2) 学生の IPE 体験や実践者の IPW 体験の蓄積と IPW, IPE の理論化

- ・上記 (1) のスタディ・ミーティングにおいて、IPE や IPW の理論・実践・評価について学習の機会を得た。
- ・IPERC が主導する「IPE プログラムの教育評価に関する研究」の一環として、2024 年度の Step1～4 およびクリニカル IPE の受講生を対象に研究データを収集した。亥鼻 IPE の教育プログラムの評価を行い、IPE プログラムの学習効果を評価し、教育方法の改善点を明確にする取り組みをさらに進めた。
- ・IPE の教育効果評価に使用できる尺度 ISVS の日本語版翻訳に取り組み、倫理審査を通過し、現在妥当性検証のためのデータを収集している。
- ・「認知症専門職における多職種協働研修」の倫理審査を通過し、研修前後で参加者の連携度がどの程度向上したかを測定するための研究データを収集した。

#### (3) 研究成果の発信

- ・〔原著および査読つき論文〕 5 本、〔査読なし論文〕 3 本、〔学会発表〕 12 本、〔シンポジウム招聘〕 19 回であった。詳細は（資料 6）に示した。
- ・第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会にて、亥鼻 IPE の CIPE の教育効果に関する研究 1 演題を発表した。

亥鼻 IPE：クリニカル IPE の学習効果および学生の行動内容

下井俊典、井出成美、孫佳茹、齊藤可紗、臼井いづみ、朝比奈真由美、笠井大、酒井郁子

## 4. 組織運営

### 1) 予算と人材の確保

#### (1) 研修事業による自己収入の獲得

- ・本年度は、研修事業の受講料にて 74 万円の自己収入を得た。

## (2) 新たな事業費や研究助成金の確保

- ・ IPERC 特任教員・兼務教員が IPE/IPW や専門職教育に関わる研究費として獲得し継続中の研究助成金を（資料4）に示した。
- ・ 法人からの寄付金、IPERC への事業委託費、特任教員への事業委託費を（資料5）に示す。

## (3) クロスアポイントメント制度の活用などの検討による人材確保

- ・ 昨年度より継続して亥鼻高機能化構想の基金により特任教員2名の人件費を得られている。
- ・ 世界展開力強化事業 GRIP 経費により特任教員1名、事務補佐員1名の人件費を得られている。
- ・ 世界展開力強化事業 BMX 経費により、事務補佐員の人件費を得られた。

## 2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

### (1) 年間事業計画の策定と実施、評価

- ・ 第2期5か年計画（令和2～6年）の4年度目として、令和5年度事業計画を立て、事業運営を行った。実績をまとめ運営委員会に報告した。

### (2) 外部評価委員会による評価と運営への反映

- ・ 第2期5か年計画（令和2～6年）の5年度目として、令和6年度事業計画を立て、事業運営を行った。実績をまとめ外部評価委員会に報告し評価を得ている。

### (3) 運営委員会の開催

- ・ オンラインによる会議を3回実施した。  
第1回令和6年5月14日（Zoomによるオンライン会議）  
第2回令和6年10月1日（Zoomによるオンライン会議）  
第3回令和7年2月4日（Zoomによるオンライン会議）

### (4) 教育実践研究部会の開催

- ・ 2024.4.4 コア教員会議をオンライン開催した。以下の議題について検討を行った。  
(1) Step1・2の各回における教員のタスク範囲の変更  
(2) 成績担当の先生方の明記依頼（名簿送付時・Moodle上で「教員」として登録のため）  
(3) Step2 専門職インタビューFD開催日の確認

### (5) ニュースレターの発行

- ・ 2024年度の事業をまとめたニュースレターを作成し、2025年3月刊行号として IPERC の HP にて PDF 版を掲載した。2025年4月以降500部印刷し、大学病院・医学部・看護学部・薬学部等関連部署に紙媒体を配布する予定である。

## 3) IPERC の将来構想

### (1) IPERC を含む総合教育棟の概算要求

- ・ 申請しなかったが、キャンパスマスタープランに基づき次年度申請をする予定である。

### (2) 専門職連携学の構築を目指した大学院における履修証明プログラムの導入や副専攻の設置などの検討

- ・ 世界展開力強化事業 GRIP により、博士前期課程副専攻国際実践学 GRIP を設置し、7科目、「専門職連携実践基礎」「専門職連携実践1」「専門職連携実践2」「Cultural Competency and Cultural Humility」「社会課題解決基礎」「社会課題解決応用」「専門職間社会課題解決演習」を開講した。本年度は副専攻として受講した院生は2名であった。

## IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

### 1. 令和6年度(2024年度)外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、令和6年度外部評価委員会を計画した。Zoomによるオンライン会議として開催した。

日時：令和7(2025)年3月3日(月) 10:30～11:30

会議出席者 (五十音順)

外部評価委員 5名 新井利民委員、池畑久美子委員、川島啓二委員、渡邊秀臣委員、山木則男委員

千葉大学関係者 19名

学内陪席 酒井センター長、増島評議員

(以下、運営委員) 中村浩之教授、池崎澄江教授、大塚将之教授、笠井大講師、清水郁夫特任教授、関根祐子教授、石川雅之助教、内海尊雄助教、永島一輝助教、眞嶋朋子教授、井出成美准教授、飯野理恵講師、齊藤可紗助教、下井俊典特任准教授、孫佳茹特任講師、臼井いづみ特任助教、藤澤陽子副看護部長

### 2. 外部評価委員による講評

外部評価委員には、令和6年度の事業実績について、「A：計画より進捗している、B：計画通り進捗している、C：計画よりやや遅れがある、D：計画よりかなり遅れがある」の評価基準での評価と総合評価コメントをいただいた。外部評価委員からの評価コメント(原文のまま)を掲載する。

	IPERC 自己評価	外部評価委員評価			
		A評価	B評価	C評価	D評価
1. 教育	A	5	0	0	0
2. 実践・社会貢献	A	4	1	0	0
3. 研究	B	1	4	0	0
4. 組織運営	A	3	2	0	0

【総合評価コメント】原文のまま(順不同)

A 委員	<p>① 亥鼻 IPE を受講した学生たちが、IPW に必要な知識や態度を養っていることは既に様々な研究で明らかにされている。IPE プログラムが卒後の臨床・地域実践にどのように生かされているのかについて研究が深まれば、今後の様々な医療系大学・学校等での IPE の取り組みの進展や、地域ベースの CIPE などの発展に寄与するのではないかと。</p> <p>② IPERC の取り組みの、国内の他の専門職教育や専門職連携教育へのインパクトは、実績値ベースでも大きいことが伺える。今後は、IPE を受講した卒業生、IPE/IPW に関わる研修の受講生やコンサルを受けた主体が、いかに IPE/IPW を展開しているのかについて示すことで、さらに IPERC の存在感を社会的に示すことができると考えられる。</p> <p>③ 評価委員会においては国際的な潮流としての地域ベースの CIPE について紹介があった。病院におけるワンデイ CIPE も含め、これらのプログラムの両輪的展開が、次の我が国の IPE・IPW のイノベーションにつながることは明らかである。実現にあたっての困難も含めて、ぜひ国内外にプロセスと成果を発信していただきたい。</p> <p>*IPE カリキュラムマネジメント研修の受講生の関係で、「2」の評価を「B」といたしました。</p>
B 委員	<p>・教育については、連続性・階層性について学生が意識できるようプログラムを改善しており、次年度の課題も明確にして計画立案されています。また、CIPE、GRIP ともに発展的な取り組みへとつながっており、A 評価としました。</p>

	<p>・実践・社会貢献については、国内外さまざまなところへの講師派遣やコンサルテーションを広く行い、ニーズに対応している点や、学会・書籍等での発信、他の会議等との連携や政策提言など、精力的に行っており A 評価としました。今後、より現場や地域へと広がっていくことを期待致します。</p> <p>・研究については、学生への助言・指導の様子や、先生方の研究実績について理解することができました。組織運営については、IPERC 主催事業による収入や委託事業資金などを取得しながら、事業の安定および人材確保も行っており、計画的に事業を進めていらっしゃいます。この 2 項目につきましては、計画どおり進捗している (B) と評価しました。</p> <p>ご報告ありがとうございました。皆様の更なるご活躍を祈っております。</p>
C 委員	<p>教育面においては、玄鼻 IPE が引き続き学習到達目標が明示されつつオンライン評価システムの統一等の改善が図られている。新たな発展的取り組みとして、試行事業としての CIPE が展開されてきたが、デイリー CIPE へと発展的に終了した。このような附属病院との連携も高く評価される。インパクトの大きい「大学の世界展開力事業」への採択と取り組みも学生交流のレベルで順調に進められているが、台湾大学や台北医科大学との間で進められているプログラム開発にも期待したい。実践・社会貢献面においては、他大学、地方自治体、関係団体、学会等とのコラボレーションやコンサルテーションが展開されていることを高く評価する。IPERC 側で対応する人材の育成・補充も進められており、組織としての充実がうかがえる。IPE カリキュラムマネジメント &amp; 授業開発研修等の IPERC 主催研修を履修証明プログラム、職業実践力プログラムの制度枠組みに合わせての再編成することが構想されているが、現代における学び直し等の観点から、社会貢献に係る取組としても評価されよう。研究面については、教育面、実践・社会貢献面におけるパフォーマンスの高さに比べれば物足らなさは否めないものの順調に成果は実現されている。組織運営面においては、自己評価は B であるが、クロスアポイント制度を用いた人材の活用、基金や事業経費獲得による特任教員の雇用などによって、必要な人的資源を充実させていることを高く評価し A とした。教育・研究・社会貢献を幅広く展開していく上で、人材の充実は最大限に強化されなければならないポイントであるからである。</p>
D 委員	<p>【教育】教育項目では、オンラインシステムを Teams に変更されましたが、学習はスムーズにおこなわれています。既にプログラムの完成度は高いと判断されますが、工学部の参画が実施され、カリキュラムの違いの中で、この教育の時期、時間の調整等着実に実績を残しているといえます。CIPE の発展はこの取り組みの実質化が図られたと高く評価されます。グローバル活動として、台湾を中心に国際的發展も積極的に進んでいます。</p> <p>【実践・社会貢献】IPE カリキュラムマネジメント・授業開発研修への参加者がいなかったことは残念でしたが、いろいろな学外の組織での研修は積極的に実施されています。IPW の実践も実績を残しています。医学部附属病院の新人研修が実施されたことは、今後こちらの病院の安全文化の醸成に結びついていくことと思われます。</p> <p>【研究】研究の実施とその成果としての研究費の獲得は十分な実績と評価されます。研修の成果解析のデータの取得は、研究の準備を確実に進めているといえ、成果が楽しみです。</p> <p>【組織運営】研修による自己収入の獲得や、クロスアポイント制度の活用など、活動の資金体制の持続性の体制構築は高く評価されます。</p>
E 委員	<p>IPE 研究の更なる評価向上のために、「地域」を対象としてはどうか。</p> <p>地域コミュニティ・ケアの諸課題の解決について教育のために研究を進めて貰うこと、地域社会の変容の中、ケアの課題解決に効果的なアウトカムにつながる「コミュニティの実践」を考えたい。</p> <p>地域をターゲットにすることで、地域コミュニティと協働してケアの課題解決策を探求し研究に役立てられる。</p> <p>以下が、「地域」を研究するための「学び・体験・考察」の視点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康であること・生きること (EOL) について、当事者や家族の問題意識を学ぶ</li> <li>・医療・福祉専門職が、コミュニティ (メディカル) カフェに参加し、地域ケアの課題や当事者と家族のケアについて、実際に体験する</li> <li>・地域コミュニティでの仲間たちが医療・福祉とつながり、人と人のつながりから地域ケアの課題解決に向けての「実践のあり方」を考察する</li> </ul>

### 3. 外部評価委員の講評のまとめ

5名の外部評価委員（高等教育の専門家、IPEに精通している他大学の教員2名、県の看護協会の教育担当責任者、社会課題に取り組む市民団体の元代表）からいただいた評価・コメントを踏まえて、今後の課題をまとめた。

#### 1) 教育について

5名の委員からA評価を頂いた。亥鼻IPEについては、学習到達目標を示しつつ連続性・階層性について学生が意識できるような授業改善、オンラインシステムの統一によりスムーズな学習と評価が行われていることについて、肯定的に言及頂いた。また、クリニカルIPEによる附属病院との連携およびデイリーIPEへの発展的終了、GRIPの発展やその他国際交流活動について、積極的な取り組みへの評価を頂いた。今後も学生の要望や授業評価・フィードバックを丁寧に分析し、授業改善への真摯な取り組みを続けて行くとともに、国際的プログラムの継続・発展についても取り組んでいきたいと考える。

#### 2) 実践・社会貢献について

4名の委員からA評価、1名の委員からB評価を頂いた。他大学や地方自治体への講師派遣、研修の開催、コンサルテーションの実施に対し肯定的に言及を頂いた。今年度受講者がなかったIPEカリキュラムマネジメントについては、今後履修証明プログラムの構築などへの発展を計画しており、これによる社会貢献への期待も言及された。今後も、IPE/IPWに関する知識と技術の更新・開発と、それらの知見を保健医療福祉の現場へ還元していく拠点としての役割を認識して取り組んでいきたいと考える。

#### 3) 研究について

1名の委員からA評価、4名の委員からB評価を頂いた。研究の実施とその成果としての確実な獲得についてコメントを頂いた。今後の更なる発展のために、IPEを受講した卒業生やIPE/IPWに関わる研修の受講生が保健医療福祉の現場でどのようにIPE/IPWを展開しているのかについて明らかにしていくこと、また地域社会の変容に伴う地域コミュニティ・ケアの諸課題の解決について、教育にもつながる研究を推進していくことへの助言があった。委員の皆様の期待を今後の研究活動に反映させていきたいと考える。

#### 4) 組織運営について

3名の委員からA評価、2名の委員からB評価を頂いた。IPERC主催事業による収入や委託事業資金の取得、クロスアポイント制度を用いた人材確保など、活動に係る資金および人的資源の持続的な確保について、肯定的な評価をいただいた。今後は現在構築を進めている履修証明プログラムによる持続的な資金の獲得も見込まれており、引き続き教育・研究・社会貢献を幅広く展開していくうえでの資金と人材育成・確保を継続していきたいと考える。

# V. 資料

## (資料1) 亥鼻 IPE 数値実績

受講学生数 (総計 18,325 名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				クリニカルPE			合計			
	医学部	看護学部	薬学部	工学部	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	(他大生)	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部		薬学部	計	
2007	97	86	85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	268
2008	100	81	83	-	97	83	83	263	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	527
2009	109	84	80	-	97	83	83	263	97	85	43	-	225	-	-	-	-	-	-	-	-	-	761
2010	109	84	80	-	108	83	77	268	102	78	50	-	230	95	89	41	225	-	-	-	-	-	996
2011	113	84	86	-	119	86	84	289	103	84	39	-	226	102	76	43	221	-	-	-	-	-	1,019
2012	117	85	88	-	115	80	87	282	119	83	37	-	239	101	85	38	224	-	-	-	-	-	1,035
2013	118	84	88	-	116	86	89	291	123	83	44	-	250	123	85	35	243	-	-	-	-	-	1,074
2014	119	84	83	-	117	83	87	287	120	81	50	-	251	124	81	49	254	-	-	-	-	-	1,078
2015	121	83	87	-	116	85	83	284	130	83	46	16	275	113	83	42	238	4	4	3	11	1,099	
2016	119	80	84	-	119	84	87	290	123	85	45	5	258	131	83	40	254	15	13	13	41	1,126	
2017	118	84	86	54	117	80	84	281	125	80	45	5	255	124	84	40	248	17	17	16	50	1,176	
2018	117	84	85	44	114	80	84	278	117	158	42	4	321	132	79	45	256	11	17	10	38	1,223	
2019	123	82	89	46	116	81	85	282	122	81	55	3	261	118	160	51	329	14	14	17	45	1,257	
2020	117	80	93	41	124	84	88	296	110	84	43	0	237	118	80	44	242	-	-	-	-	1,106	
2021	116	82	95	50	113	77	93	283	129	77	57	0	263	109	81	41	231	8	12	9	29	1,149	
2022	120	84	97	50	118	82	68	268	111	81	48	0	240	129	75	57	261	8	11	8	27	1,147	
2023	120	84	93	52	112	84	79	275	121	84	49	0	254	113	80	49	242	7	9	7	23	1,143	
2024	118	82	93	49	119	84	73	276	111	85	50	0	246	121	88	49	258	5	8	6	19	1,141	
					4,756				4,031				3,726				283			18,325			

\*医学部は附属病院医師含む。

\*\*附属病院は医師以外

教員及び外部機関専門職 (総計 2,697 名)

年次	Step1 (教員、外部機関専門職)					Step2 (教員、外部機関専門職)					Step3 (教員、外部機関専門職)							
	*医学部	看護学部	薬学部	工学部	その他	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計	*医学部	看護学部	薬学部	**附属病院	外部機関	計
2007~2010	31	44	37	-		112	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2011	8	10	10	-		28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2012	8	11	9	-		28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2013	13	14	13	-		40	4	6	5		0	15	4	6	5	0	-	15
2014	12	15	15	-		42	5	5	7		0	17	4	10	6	3	40	63
2015	17	12	6	-		35	7	7	6		22	42	15	8	5	3	24	55
2016	16	10	7			33	6	6	7	2	1	22	7	13	6	3	1	30
2017	14	11	7	10		42	6	6	6	2	1	21	8	10	6	-	-	24
2018	12	9	6	12		39	7	5	5	1	0	18	9	9	6	-	-	24
2019	18	9	7	13		47	12	6	5	1	0	24	12	11	7	-	-	30
2020	5	16	7	3		31	4	16	5	0	0	25	11	15	8	-	-	34
2021	11	13	7	12	4	47	11	9	4	1	0	25	10	9	8	-	-	27
2022	15	16	6	14	4	55	10	8	5	0	0	23	12	14	7	-	-	33
2023	15	19	6	14	2	56	12	12	5	0	0	29	10	12	8	-	-	30
2024	16	19	7	14		56	12	11	6	0	0	29	10	15	8	0	0	33

年次	Step4											クリニカルIPE				合計											
	医学部	看護学部	薬学部	附属病院								外部機関	計	医学部	看護学部		薬学部	附属病院			計						
				医師	看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士	心理カウンセラー							遺伝カウンセラー	管理栄養士	医師		看護師	薬剤師				
2007~2010	1	2	2	11	10	3	3	3	2	6	1	1	4	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	161
2011	2	6	2	9	6	1	3	3	2	3	1	1	2	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70
2012	3	4	2	11	7	3	2	3	1	5	1	1	4	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75
2013	5	6	3	9	9	3	3	3	1	5	1	2	4	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	124
2014	3	5	3	10	9	3	3	3	1	4	1	1	4	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	172
2015	1	8	5	16	9	3	3	3	2	5	1	1	4	61	2	4	1	-	-	-	-	-	-	0	12	205	
2016	1	9	7	14	9	4	3	3	2	7	0	2	4	65	2	5	2	-	-	-	-	-	-	13	19	63	213
2017	2	7	6	13	9	5	3	3	1	7	1	2	4	63	2	8	3	-	-	-	-	-	-	14	20	61	211
2018	1	10	5	15	10	5	4	4	2	4	1	2	4	67	2	8	2	-	-	-	-	-	-	9	15	48	196
2019	2	7	5	16	11	5	3	3	2	7	1	0	4	66	2	8	3	-	-	-	-	-	-	13	13	54	221
2020	3	12	5	11	11	5	2	3	1	7	1	1	3	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	155
2021	8	8	7	10	11	5	3	3	1	7	2	1	4	70	3	7	2	-	-	-	-	-	-	9	15	46	215
2022	9	10	6	11	13	6	3	5	1	7	1	2	3	77	3	5	3	-	-	-	-	-	-	10	9	43	231
2023	5	10	7	14	12	5	2	3	1	6	1	1	3	70	3	6	2	-	-	-	-	-	-	6	9	39	224
2024	6	11	6	14	11	4	2	3	1	6	1	2	2	69	3	8	1	-	-	-	-	-	-	4	10	37	224

2,697

協力TA [大学院生] (総計 321 名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				合計	
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計	医学部	看護学部	薬学部		その他
2007~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	3	1	2	1	4	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	4	2	3	1	6	19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	0	1	1	3	0	1	12
2017	1	2	4	7	1	0	5	6	1	2	2	0	5	4	1	4	0	27
2018	0	2	4	6	2	0	4	6	0	1	2	0	3	0	2	6	0	23
2019	3	7	2	12	3	6	3	12	0	3	2	0	5	3	0	2	1	35
2020	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2021	0	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
2022	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2023	2	6	1	9	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
2024	4	4	1	9	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	10

321

実習協力施設 (総計 867 名)

年次	Step1		Step2							クリニック/PE		合計
	病院	福祉施設	病院	診療所・クリニック	薬局	訪問看護ステーション	回復期リハビリテーション病棟	保健機関・介護福祉施設	計	附属病院 診療科		
2007~2010	24	0	15	32	52	25	-	21	145	-	169	
2011	6	0	5	11	15	11	-	8	50	-	56	
2012	6	0	5	9	22	9	-	4	49	-	55	
2013	6	0	6	12	21	6	-	3	48	-	54	
2014	7	0	6	11	17	6	3	2	45	-	52	
2015	6	0	6	11	15	5	4	3	44	2	52	
2016	6	0	7	11	15	5	6	3	47	10	63	
2017	7	0	11	10	15	5	3	5	49	12	68	
2018	7	0	7	11	13	5	3	3	42	9	58	
2019	8	0	5	14	17	5	3	2	46	10	64	
2020	0	1	1	5	5	1	0	1	13	-	14	
2021	2	1	5	6	11	4	2	2	30	6	39	
2022	2	0	5	6	13	5	2	1	32	6	40	
2023	2	0	6	8	14	4	2	2	36	6	44	
2024	2	0	5	9	11	5	2	1	33	4	39	

867

FD/SDの参加者数 (総計 2,299 名) \*2016～亥鼻FDプロジェクト開始

年次	Step1	Step2		Step3	Step4	*その他	合計
		実習施設 担当者	ファシリ テーター				
2007～2010	88	44	-	-	28	105	265
2011	17	33	-	-	23	-	73
2012	17	31	-	-	17	-	65
2013	20	17	-	-	25	-	62
2014	31	15	-	61	25	-	132
2015	10	28	43	52	24	22	179
2016	21	42	-	29	35	54	181
2017	23	21	-	21	29	134	228
2018	22	36	-	16	25	43	142
2019	17	28	-	22	26	36	129
2020					29	35	64
2021	29	49	-			21	99
2022	55	42	-	32	77	39	245
2023	56	41	-	26	70	17	210
2024	56	43		32	69	25	225

※2022年度よりStep2以外はメールで資料配布

2,299

授業に協力いただいた患者団体  
(総計92団体)

2007～2010	48
2011	17
2012	2
2013	2
2014	2
2015	2
2016	2
2017	2
2018	2
2019	2
2020	3
2021	2
2022	2
2023	2
2024	2

92

(資料2) IPERC主催研修受講者

IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修 0名

2024年度開講なし

IPWベーシック研修・IPWマネジメント研修

【理論編】 32名

所属	職種	都道府県	人数
医療機関	医師	岡山県	1
	看護師	千葉県	5
		兵庫県	3
		岡山県	2
		青森県	1
	臨床工学技士	神奈川県	1
		京都府	1
	ソーシャルワーカー	千葉県	1
	理学療法士	千葉県	1
		兵庫県	1
		神奈川県	1
		新潟県	1
	社会福祉士	千葉県	2
		愛知県	1
管理栄養士	千葉県	1	
大学・短期大学・専門学校	看護教員（看護師）	静岡県	4
		新潟県	1
		岩手県	1
その他	看護師	東京都	1
		宮城県	1
	保健師	神奈川県	1

【IPWベーシック研修 実践編】 53名

1. 職種間の理解 11名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	千葉県	1	8
		兵庫県	2	
		岡山県	1	
	臨床工学技士	神奈川県	1	
		京都府	1	
	理学療法士	千葉県	1	
社会福祉士	千葉県	1		
大学・専門学校	看護教員（看護師）	新潟県	1	1
その他	看護師	東京都	1	2
	保健師	神奈川県	1	

2. チーム内の効果的なコミュニケーション 11名

所属	職種	都道府県	人数	計	
医療機関	医師	岡山県	1	8	
		千葉県	1		
	看護師	兵庫県	2		
		臨床工学技士	神奈川県		1
			京都府		1
	理学療法士	千葉県	1		
	社会福祉士	千葉県	1		
大学・専門学校	看護教員（看護師）	新潟県	1	2	
		岩手県	1		
その他	保健師	神奈川県	1	1	

3. チーム内の効果的なコミュニケーション 11名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	兵庫県	3	8
		千葉県	1	
		岡山県	1	
	臨床工学技士	神奈川県	1	
	理学療法士	千葉県	1	
社会福祉士	千葉県	1		
大学・専門学校	看護教員（看護師）	新潟県	1	2
		静岡県	1	
その他	保健師	神奈川県	1	1

4. 多職種カンファレンス 10名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	兵庫県	2	7
		岡山県	1	
	管理栄養士	千葉県	1	
	臨床工学技士	神奈川県	1	
	理学療法士	千葉県	1	
	社会福祉士	千葉県	1	
大学・専門学校	看護教員（看護師）	新潟県	1	2
		静岡県	1	
その他	保健師	神奈川県	1	1

5. 対立の解決 10名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	兵庫県	2	7
		東京都	1	
		岡山県	1	
	臨床工学技士	神奈川県	1	
	理学療法士	千葉県	1	
	社会福祉士	千葉県	1	
大学・専門学校	看護教員（看護師）	新潟県	1	2
		静岡県	1	
その他	保健師	神奈川県	1	1

【IPWマネジメント研修 実践編】 4名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	東京都	1	4
	社会福祉士	千葉県	1	
	医療ソーシャルワーカー	千葉県	1	
	管理栄養士	千葉県	1	

(資料3) 地域貢献事業実績

地域貢献事業実績

【国内】

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
1 事業委託	行政機関	千葉県健康福祉部高齢者福祉課	研修講師	認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 対象：千葉県内で勤務する医師、看護職、薬剤師、介護職等	2024.12.21 2025.1.13	9:00-16:00	千葉大学大学院看護学研究科 看護学総合教育研究棟	酒井郁子、諏訪さゆり、井出成美、下井俊典、孫佳和、齊藤可紗
2 主催事業	学内	千葉大学大学院看護学研究科 専門職連携教育センター	研修講師	IPWペーシング研修・IPWマネジメント研修【理論編】	2024.6.1- 2024.1.31		オンライン(オンデマンド)	酒井郁子、井出成美
3 主催事業	学内	千葉大学大学院看護学研究科 専門職連携教育センター	研修講師	IPWペーシング研修 実践編① 職種間の理解 実践編② チーム内の効果的なコミュニケーション 実践編③ チームワークの促進スキル 実践編④ 多職種カンファレンス 実践編⑤ 対立の解決	◎2024.10.8 ◎2024.10.22 ◎2024.11.5 ◎2024.11.26 ◎2024.12.10	17:00-20:00	オンライン(同時) 双方向型	酒井郁子、井出成美、下井俊典、孫佳和、齊藤可紗
4 主催事業	学内	千葉大学大学院看護学研究科 専門職連携教育センター	研修講師	IPWマネジメント研修 実践編 対象：保健医療福祉関係施設に所属する専門職連携に課題をもつ専門職	2025.1.25	9:00-16:00	オンライン(同時) 双方向型	酒井郁子、井出成美、下井俊典、孫佳和、齊藤可紗
5 講師派遣	学内	総合医療教育研修センター(学内)	講演	4月1日(日) 令和6年度新入職員研修 多職種参加型研修専門職連携(IPW)	2024.4.1	9:40-17:15	医学系総合研究棟 第1講義室、第2講義室、第3講義室	酒井郁子、朝比奈真由美、井出成美、下井俊典、孫佳和
6 講師派遣	他大学	岐阜大学 医学教育開発研究センター	研修講師	岐阜大学大学院医学系研究科 医療者教育学専攻修士課程「医療における多職種協働と地域連携」	2024.4.10-12 2024.4.25			下井俊典
7 講師派遣	職能団体	東京都看護協会	研修講師	ファーストレベル 質管理 I	2024.5.13 2024.7.29 202.11.15	9:30-16:30	東京都看護協会	酒井郁子
8 講師派遣	保健医療福祉機関	公益財団法人テクノエイト協会	講師	福祉用具プランナー管理指導者養成研修(起居移乗コース) 医学一般(専門職の役割と連携・協働の在り方)	2024.5.17	13:00-14:30	公益財団法人テクノエイト協会	下井俊典
9 講師派遣	他大学	学校法人巨樹の会 社会医療法人財団池友会 カマチグループ	講演	看護を考える講演会 「これからのIPE(専門職連携教育)・IPOP(専門職連携協働実践)」	2024.5.25	10:00-15:30	令和健康科学大学	酒井郁子
10 その他	職能団体	日本理学療法士協会 教育推進課(高橋・潮崎)	委員業務(会議等出席)	日本理学療法士臨床認定カリキュラム審査部会 部会員	2024.6.2-2025.6.1	10日、各2時間	WEB会議	下井俊典
11 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー演者	医療安全と不眠症診療セミナーへの講師派遣依頼	2024.6.5	17:00-18:00	千葉中央メディアカルセンター	酒井郁子
12 講師派遣	他大学	水野 恵理子 順天堂大学大学院医療看護学研究科 精神看護学分野	講演	第24回日本運動器看護学会学術集会 特別講演「地域包括ケアにおける専門職連携実践の実際と効果」	2024.6.9	10:30-11:30	北里大学白金キャンパス 薬学部1号館1501講義室	酒井郁子、センター長

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
13 その他	その他	自治労 都区・政令市共闘会議民生部 会	講演	記念講演「職場のコミュニケーションスキル」	2024. 6. 21	15:20-16:50	オークラ千葉ホテル 3階エリーゼⅡⅢ	下井俊典・孫佳祐
14 講師派遣	他大学	京都大学大学院医学研究科	講演	「専門職連携教育の実践と今後」をテーマに講演	2024. 7. 2	16:15-18:15	京都大学大学院医学 研究科	酒井郁子
15 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー演者	不眠症治療薬の適正使用を考える会 「テーマ」「身体拘束縮小と不眠症治療薬の適正使用～当院での取り組み の実践と効果～」	2024. 7. 9	18:00-19:30	千葉大学（配信）	酒井郁子
16 講師派遣	他大学	北里大学大学院看護学研究科 研究科長 松谷伸二	非常勤講師	老年看護学Ⅳ	2024. 7. 18	9:00-12:00 13:00-14:30	オンライン	酒井郁子
17 講師派遣	職能団体	回復期リハビリテーション病棟協会	講師	医療安全委員会・看護介入委員会、合同研修会 テーマ「エビデンスに 基づいた身体拘束縮小の取り組み」	2024. 7. 20	13:05-15:00	オンライン	酒井郁子
18 講師派遣	学内	千葉大学医学部附属病院総合医療教育 研修センター	研修講師	特定行為研修「チーム医療演習」	2024. 8. 1	13:00-15:00	総合医療教育研修セ ンター	酒井郁子・井出成美・下 井俊典・孫佳祐
19 講師派遣	大学以外の教育機関	徳島県立総合看護学校	講師	教育研修会 IPE（専門職連携教育）について	2024. 8. 5	9:30-16:30	徳島県立総合看護学 校	酒井郁子
20 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー演者	城北医療安全セミナー 身体拘束縮小に向けた取り組みの実践と効果 不眠症治療薬の適正使用を含めて	2024. 8. 8	18:30-20:10	千葉大学（配信）	酒井郁子
21 講師派遣	他大学	群馬大学大学院	講師	IPEトレーニングコース 研修協力	2024. 8. 21	13:15-14:05	群馬大学医学部保健 学科ミレニアムホー ル	孫佳祐
22 講師派遣	職能団体	宮城県看護協会	講師	高齢者ケア施設の看護管理者研修 組織マネジメント、チームマネジメ ント	2024. 8. 21-22	10:00-16:00	宮城県看護協会 館・看護研修セン ター	酒井郁子・井出成美・下 井俊典・孫佳祐
23 講師派遣	学会	日本看護学教育学会第34回学術集会	講師	教育講演2 講師 多職種連携でつなぐ一いつながる 多職種連携教育の未来	2024. 8. 20	11:20-12:20	京王プラザホテル 第2会場	酒井郁子
24 講師派遣	他大学	神戸市看護大学	講師	特別講演会 看護の専門性と専門職連携 対象：大学院博士課程の大学院生および教職員	2024. 8. 26	15:00-16:30	オンライン	酒井郁子
25 講師派遣	職能団体	千葉県看護協会	講師	高齢者の尊厳を守り日常生活を支える看護	2024. 8. 27	13:15-16:15	オンライン	酒井郁子
26 講師派遣	学会	第30回日本摂食嚥下リハビリテーション 学会学術大会 大会長	講演	シンポジウム「多職種連携教育」「患者中心の医療を実現するチーム医 療と教育」日本における専門職連携教育のいままでとこれから	2024. 8. 30	16:00-17:30	福岡国際会議場	酒井郁子
27 講師派遣	職能団体	千葉県看護協会	研修講師	第23回認定看護管理者教育課程セカンドレベル	2024. 9. 9	9:30-16:15	千葉県看護協会	酒井郁子

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
28 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー演者	全国インタネットライブセミナー 不眠症診療WEBセミナー	2024. 9. 13	18:30-19:45	京成ホテルミラマー し	酒井郁子
29 講師派遣	他大学	奈良県立医科大学	講師	第3回奈良医大特定行為フォーラム 講演	2024. 9. 15	13:00-15:45	橿原市コンベンション ホール	酒井郁子
30 講師派遣	職能団体	千葉県看護協会	研修講師	令和6年度 第1回船橋地区部会研修会 身体拘束最小化に向けた組織的活動戦略	2024. 9. 19	14:00-16:45	東邦大学習志野キャン パス	酒井郁子
31 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー演者	不眠症診療WEBセミナー	2024. 9. 24	18:00-19:20	山玉病院 (ハイブ リット形式)	酒井郁子
32 講師派遣	職能団体	全国リハビリテーション 専門学校協会	講師	2024年度 全国リハビリテーション専門学校協会 教員研修会 「学習者中心の授業をつくってみよおーインストラクショナル・テサイ ンに基づいた教育設計」	2024. 9. 28	集中6時間	国際医療福祉大学東 京赤坂キャンパス	下井俊典
33 講師派遣	職能団体	千葉県看護協会	研修講師	第23回認定看護管理者教育課程セカンドレベル ヘルスケアシステム論 Ⅱ	2024. 10. 9	9:30-16:15	千葉県看護協会	井出成美・下井俊典・孫 佳茹
34 講師派遣	職能団体	回復期リハビリテーション 専門学校協会	講師	2024年度 回復期リハビリテーション看護認定コース 第17期	2024. 10. 26	9:00-11:00 11:00-12:00 13:00-14:30	WEB開催 (オンデマ ント動画)	酒井郁子
35 コンサル(そ の他)	大学以外の教育機関	栃木県立小山高等学校		栃木県立小山高等学校進路探究型研究プログラム	2024. 11. 1	10:00-15:00	千葉大学大学院看護 学研究院 看護医業 総合教育研究棟	井出成美・下井俊典・齊 藤可紗
36 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー演者	医療安全と不眠症診療セミナー	2024. 11. 6	17:45-18:45	WEB開催	酒井郁子
37 情報発信	学会	第17回日本保健医療福祉連携教育学会 学術集会	シンポジスト	第17回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 シンポジウム2 「災 害時の生活支援と専門職連携」 話題提供：大学院教育における災害時専門職連携演習	2024. 11. 10		埼玉県立大学	酒井郁子
38 情報発信	学会	第17回日本保健医療福祉連携教育学会 学術集会	シンポジスト	第17回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 シンポジウム1 「専門 職連携教育の地域社会への展開～IPEからIPWへ～」 話題提供：諸機関と共に創るIPEの地域展開	2024. 11. 10		埼玉県立大学	井出成美
39 講師派遣	行政機関	千葉市地域連携室連絡会	講師	第19回千葉市地域連携室連絡会「多職種連携の課題解決方法を学ぼう」 『多職種連携の課題・解決方法を学ぼう～多職種と対立が起きた時～』 『多職種連携の基礎知識 (講義1)』 『対立の解決のストラテジー』 (講義2)	2024. 11. 20	18:30-20:00		酒井郁子・井出成美・下 井俊典・孫佳茹
40 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー演者	不眠症・医療安全セミナー。身体拘束縮小に向けた取り組みと実際～不 眠症治療薬の適正使用を含めて。(オンライン)	2024. 12. 18	17:50-19:00	WEB開催	酒井郁子
41 講師派遣	他大学	広島大学大学院医系科学研究科	講師	附属先駆的看護実践支援センター FD研修 訪問看護師養成研修 講演 生活と看取りを在宅で支える看護の将来像-高度実践看護師教育の現状 と課題-	2024. 12. 19	17:00-18:00	WEB開催	酒井郁子

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
42 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー 演者	名古屋市立大学病院院合同セミナー「Dementia care Support Team seminar」身体拘束縮小に向けた取り組みの実践と効果～不眠症治療薬の適正使用を含めて～	2025. 1. 23	18:30-19:30	オンライン	酒井郁子
43 講師派遣	職能団体	千葉県看護協会	講演	看護師の特定行為研修制度と研修修了者の実践	2025. 1. 27	11:05-16:15	オンライン	酒井郁子
44 講師派遣	行政機関	独立行政法人国立病院機構本部	講師	他職種連携に必要な人材育成	2025. 1. 30	15:15-116:15	独立行政法人国立病院機構本部	下井俊典
45 講師派遣	保健医療福祉機関	国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院	講師	医療安全講演会 身体拘束最小化と事故防止	2025. 2. 6	17:30-18:30	国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院	酒井郁子
46 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー 演者	不眠症・医療安全セミナー「身体拘束縮小に向けた取り組みと実際～不眠症治療薬の適正使用を含めて～」(東京女子医科大学関連病院)	2025. 2. 18	19:00-20:00	オンライン	酒井郁子
47 講師派遣	行政機関	千葉市地域連携推進連絡会	講師	第20回千葉県地域連携推進連絡会「対立の解決のストラテジー」(講演)	2025. 2. 19	18:30-20:00	オンライン	酒井郁子・井出成美・下井俊典・孫佳茹
48 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー 演者	医療安全と不眠症治療薬セミナー「身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果～不眠症治療薬の適正使用を含めて～」	2025. 2. 21	18:00-19:00	松戸整形外科病院	酒井郁子
49 講師派遣	職能団体	全国リハビリテーション学校協会	講師	2024年度 全国リハビリテーション学校協会 教員研修会「インストラクショナル・デザインって何だ」	2025. 2. 25-3. 31		オンライン(オンデマンド配信)	下井俊典
50 講師派遣	その他	エーザイ株式会社	セミナー 演者	船橋北医療安全セミナー 身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果～不眠症治療薬の適正使用を含めて～	2025. 2. 26	18:30-19:50	オンライン	酒井郁子
51 その他	その他	エーザイ株式会社	座長	看護師のための認知症WEBセミナー	2025. 3. 4	18:30-19:30	オンライン	酒井郁子
52 講師派遣	大学以外の教育機関	国立障害者リハビリテーションセンター学院	研修講師およびファシリテーター	看護研修会「リハビリテーション看護コース」オンライン研修 テーマ：高齢者への適切なケアを考える①高齢者の身体拘束の解除、②高齢者のせん妄の予防、③高齢者の転倒予防、④専門職連携とカンファレンスの実践	2025. 3. 22	9:15-16:00	オンライン	酒井郁子・井出成美・下井俊典・孫佳茹
53 その他	職能団体	日本看護系大学協議会 代表理事 堀内成子	委員会 委員	APNオンラインアドバイザリー委員会 委員会は年、5～6回、1回60分～90分程度	2024. 7. 12-2026. 定時 社員総会終結まで	9:00-10:45	オンライン	酒井郁子
54 その他	職能団体	日本看護系大学協議会 代表理事 堀内成子	有識者意見調査参加	令和6年度看護学教育モジュールアカリキュラム改訂に向けた調査研究 特別ワーキンググループ参加	9月上旬 9月18日以 降、10月中旬 2025. 1. 21	9:00-10:00	オンライン	酒井郁子
55 講師派遣	学会	全国大学理学療法学会	シンポジスト	第18回全国大学理学療法学会における講師 シンポジスト2 「多職種連携教育の深化に向けた実践報告」	2025. 3. 29	1.5時間	茨城県立医療大学	下井俊典

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	日ごち	時間帯	場所	対応者
56	CICS29	学内	静岡県立こころの医療センター看護師	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.5.24			酒井郁子
57	CICS29	他大学	安曇野赤十字病院、回復期リハビリ棟	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.6.11			酒井郁子
58	CICS29	保健医療福祉機関	山梨県 巨摩共立病院	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.6.22			酒井郁子
59	CICS29	他大学	金沢大学医薬保健学総合研究科博士後期課程	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.7.10			酒井郁子
60	CICS29	保健医療福祉機関	長崎みなとメデイカルセンター看護部	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.7.31			酒井郁子
61	CICS29	他大学	仙台青葉学院大学看護学部看護学科	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.9.6			酒井郁子
62	CICS29	保健医療福祉機関	グランクレーンル芝浦(有料老人ホーム)	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.9.25			酒井郁子
63	CICS29	他大学	高知県立大学 看護学部(看護管理学領域)健康長寿研究センター	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.11.25			酒井郁子
64	CICS29	保健医療福祉機関	社会医療法人 河北医療財団 河北リハビリテーション病院 セラピー部 理学療法士 澤本陽平	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2024.12.12			酒井郁子
65	CICS30	保健医療福祉機関	順天堂大学医学部附属病院順天堂医院 専攻医 松田 慎平	調査研究にCICS29を使用することへの許諾願い	2025.1.18			酒井郁子

(資料4) IPERC特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金

No	研究代表者	研究課題	助成金の種類
1	白井いづみ	災害対策本部で必要なリーダーシップを育成するシミュレーション教育プログラムの開発	基盤研究C
2	笠井大	実践的EBM能力を有する医療者養成のための教育プログラム開発とその効果検証	若手研究
3	酒井郁子	尊厳あるケアのための多層的リーダーシップ発揮による身体拘束縮小戦略の理論化と普及	基盤研究B
4	下井俊典	専門職連携教育が有する学習者のエンジェンシーに対する教育効果の多機関共同研究	基盤研究C
5	眞嶋 朋子	心不全患者の退院後の心理的安寧を支える看護支援方法の開発	基盤研究B

(資料5) IPERC 外部からの寄付金及び委託費

項目	交付額	備考
寄付金		
ユニコ (2018年度)	701,100	来年度繰越可能
社会医療法人 関愛会 (2019年度)	200000	来年度繰越可能
社会福祉法人りべるたす (2020年度)	600000	来年度繰越可能
	1,501,100	
委託費・助成金		
千葉県 (認知症にかかわる専門職の多職種協働研修)	816,000	今年度使い切り

## (資料6) 研究業績

特任教員および兼務教員の研究業績（下線は兼務教員、二重下線は特任教員）を以下に示す。

[原著]

1. Masatoshi Saiki, Yoko Fujisawa, Naoko Sakai, Nobuko Tsukahara, Yuriko Okamoto, Motohiro Sano, Junko Kusunoki, Mariko Masujima, Ikuko Sakai, Tomoko Majima (2024). Nurses' Perceptions of Support in Cancer Pharmacotherapy at a University Hospital: A Descriptive Quantitative Study. SAGE open nursing, 2024, DOI10.1177/23779608241288718

[論文等(査読あり)]

2. Mizue Suzuki, Takuya Kanamori, Tomoyoshi Naito, Keigo Inagaki, Hiromi Yoshimura, Soichiro Mimuro, Ikuko Sakai, Keisuke Sawaki, Kimiyo Matsushita, Nanayo Sasaki (2024) 急性期病院の看護師に対する認知症看護実践能力育成プログラムの多施設ランダム化比較研究：パーソン・センタード・ケアと認知症の種類別プログラムの比較. 日本老年医学会雑誌. Japanese Journal of Geriatrics 61(2) 204-217 DOIhttps://doi.org/10.3143/geriatrics.61.204.
3. Yumiko Iwasaki, Hiroki Fukahori, Akemi Okumura-Hiroshige, Ikuko Sakai, Shuichi Inoue, Tomoko Sugiyama, Katsumi Nasu, Hirofumi Ogawara.(2024) Family Caregivers' Needs in Long-Term Care Facilities: A Descriptive Qualitative Study. Research in gerontological nursing 17(4) 1-11.
4. 出穂麻智子, 佐伯昌俊, 西宮岳, 酒井郁子 (2024). 特定行為研修を修了した手術室看護師による肝切除術高齢患者へのせん妄予防を焦点とした周術期看護. 老年看護学, 29(1), 112-120.
5. Yusako Morishita, Yuya Oura, Hiroshi Oyama, Izumi Usui, Yukihiro Nomura, Toshiya Nakaguchi :Pupil Dilation as an Indicator of Cognitive Load During Multi-tasking in a Virtual Environment. The Japanese Journal for Medical Virtual Reality. No.21(1)p1~p11.2024.9
6. Ai Tomotaki, Ikuko Sakai, Hiroki Fukahori & Yasunobu Tsuda(2024). Evaluation of an evidence-based practice education workshop focused on critical appraisal for advanced practice nurses: A before-after intervention study. 24.(1351) (2024) *BMC Medical Education*. DOI <https://doi.org/10.1186/s12909-024-06315-z>. (Published: 23 November 2024)
7. Ai Tomotaki, Masatoshi Saiki, Hiroki Fukahori, Takeshi Yamamoto, Masakazu Nishigaki, Chiyo Matsuoka, Emi Yasuda, Ikuko Sakai(2025): Psychometric properties of the Japanese version of the evidence-based practice beliefs scale among clinical nurses. *Journal of International Nursing Research*. DOI 10.53044/jinr.2023-0042 .(2025)
8. Motohiro Sano, Masatoshi Saiki, Mariko Masujima, Yoko Fujisawa, Naoko Sakai, Nobuko Tsukahara, Yuriko Okamoto, Junko Kusunoki, Ikuko Sakai, Tomoko

Majima(2025). Practice for cancer pharmacotherapy among nurses, physicians, and pharmacists in Japan: A descriptive cross-sectional study, *Journal of International Journal of Nursing Research*, doi.org/10.53044/jinr.2025-0020, e2024-0020

[論文等(査読なし)]

9. 酒井郁子(2024) : 特集 多職種連携の土台を築く<論考 1>多職種連携の理念. コミュニティケア, 26(9). 6-12.
10. 酒井郁子(2024) : 特集 EBP から実践へ1 モデルを深める 看護実践におけるEBP実装モデルへの期待, *看護研究*, 57(2), 90-92.
11. 酒井郁子, 長谷川直, 窪田容子, 瀬尾智美, 西垣昌和, 友滝愛:より良いケアをめざすためのEBP実装 千葉大学医学部附属病院包括的せん妄ケアチームの活動から. *看護研究*, 57(3).230-243.
12. 酒井郁子 (2024) :「卓越したジェネラリスト診療」入門-複雑困難な時代を生き抜く臨床医のメソッド. *総合診療*, 34(9), 1033. <https://doi.org/10.11477/mf.1429204983>
13. 佐伯昌俊, 今井陽子, 西宮岳, 酒井郁子(2024) : 特定行為誕生の歴史と今、これから. 特定行為看護, 1(1), 10-15.
14. 下井俊典 (2025). 国内外における多職種連携教育の動向. *理学療法*, 42(3).

[報告書]

15. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 下井俊典, 孫佳茹, 齊藤可紗, 富永嘉子, 高野佳奈, 佐野朋子 : 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和6年度事業報告書, 2024.

[単行書]

16. 酒井郁子:高齢者総合機能評価 (CGA) ガイドラインの作成研究班,日本老年医学会,国立長寿医療研究センター : 高齢者総合機能評価 (CGA) に基づく診療・ケアガイドライン 2024. 南江堂, 2024.6.15.電子書籍版
17. 酒井郁子:2040年に期待するプライマリ・ケア (3) 看護の立場から. あなたも名医! プライマリ・ケアの理論と実践 (完全版) 95.182-183.日本プライマリ・ケア連合学会.日本医事新報社. 2024.
18. 酒井郁子 : 日本医事新報 5254号 新春特集「炉辺閑話 2025」
19. 酒井郁子:3 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 8 高齢者看護における多職種連携.193-196. ナーシング・グラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害.株式会社メディカ出版. 2025.
20. 酒井郁子:4 高齢者看護の基本 6 高齢者のリスクマネジメント.266-270. ナーシング・グラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害.株式会社メディカ出版. 2025.
21. 酒井郁子:7 精神・神経機能障害と看護 せん妄.163-167. ナーシング・グラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践.株式会社メディカ出版. 2025.
22. 酒井郁子: 高齢者の定義の再検討. 林直子. 鈴木久美. 酒井郁子(編), 成人看護学 成人看護学概論, 改訂第5版, 南江堂, 9, 2025.

23. 井出成美: B 地域包括ケア. 林直子. 鈴木久美. 酒井郁子(編), 成人看護学 成人看護学概論, 改訂第 5 版, 南江堂, 109-112, 2025.
24. 井出成美: D 認知症対策. 林直子. 鈴木久美. 酒井郁子(編), 成人看護学 成人看護学概論, 改訂第 5 版, 南江堂, 115-118, 2025.
25. 酒井郁子: C 特定行為に係る看護師の研修制度高齢者の定義の再検討. 林直子. 鈴木久美. 酒井郁子(編), 成人看護学 成人看護学概論, 改訂第 5 版, 南江堂, 340-343, 2025.

[学会発表抄録]

26. 孫佳茹 (2024) 2000 年以降ボーイスカウト研究のトレンドの可視化へのチャレンジ—AI ソフトによるテキスト解析の結果. ボーイスカウト日本連盟全国大会 2024 (令和 6) 年度 全国大会. (査読なし・国内集会)
27. 齋藤恭子, 屋久裕介, 味木由布美, 酒井郁子 (2024) EBP に基づいた点滴作成時の適切な照合方法への取り組み—ベッドサイドでの時間の拡充と看護ケアの充実を目指して—. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. (査読あり・国内学会)
28. 屋久裕介, 齋藤恭子, 味木由布美, 酒井郁子 (2024) EBP(Evidence-Based Practice)の実装に取り組むスタッフの支援—臨床・研究・教育との協働を通じて、スタッフといともて学ぶ—. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. (査読あり・国内学会)
29. 森下裕咲子, 斉藤しのぶ, 臼井いづみ, 小山博史, 野村行弘, 中口俊哉 (2024) 即時フィードバックを有した傷の手当てシミュレータの開発. 第 23 回日本 VR 医学会
30. 葉山奈美, 笠井大, 井出成美, 孫佳茹, 下井俊典, 臼井いづみ, 鈴木紀行, 石川雅之, 関根祐子, 平田慎之介, 鈴木拓児, 中口俊哉, 石井伊都子, 伊藤彰一, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2024). JSME56 特別企画 5 専門職連携教育における初回グループワークで生じる医療系学生の沈黙の要因の検討. 医学教育. 第 56 回日本医学教育学会大会予稿集. 55(suppl), 49.
31. 下井俊典, 井出成美, 孫佳茹, 齊藤可紗, 臼井いづみ, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2024). 亥鼻 IPE: クリニカル IPE の学習効果および学生の行動内容. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 62, (査読あり・国内学会)
32. 辻野拓也, 酒井郁子, 野崎章子, 飯田貴映子, 飯野理恵, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき (2024) グローバル IPE プログラムによる多職種連携能力向上効果検証: 千葉大学とシンビオシス国際大学学生の比較, 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 81, (査読あり・国内学会)
33. 山内かづ代, 野崎章子, 辻野拓也, 飯田貴映子, 飯野理恵, 鋪野紀好, 荒木信之, 伊藤彰一, 酒井郁子 (2024) 非都市部におけるグローバル IPE の可能性: 海外学生受け入れが地域組織と住民にもたらす多面的効果. 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 85, (査読あり・国内学会)
34. 下井俊典 (2024) 理学療法新入生が有する学習観と学習動機の関係. 第 13 回日本理学療法教育学会学術大会.
35. 酒井郁子 (2025). 地域包括ケアにおける専門職連携実践の実際と効果 Interprofessional collaborative practice in community-based integrated care systems. 日本運動器看護学会誌 20,5-20.

[シンポジウム・招聘講演]

36. 酒井郁子(2024). 第一部講演会 基調講演 これからのIPE (専門職連携教育)・IPCP (専門職連携協働実践). 第3回カマチグループ “看護を考える”講演会 2024—未来の看護師を考える—プログラム集. 2-16(査読あり・国内学会)
37. 酒井郁子(2024). 特別講演 地域包括ケアにおける専門職連携実践の実際と効果.第24回日本運動器看護学会学術集会 プログラム・抄録集.16. (査読あり・国内学会)
38. 酒井郁子(2024). 教育講演2 多職種連携でつなぐ—つながる多職種連携教育の未来. 日本看護学教育学会第34回学術集会抄録集, 62.(査読あり・国内学会) (オンデマンド)
39. 酒井郁子(2024). シンポジウム3「患者中心の医療を実現するチーム医療と教育」日本における専門職連携教育のいままでとこれから. 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学術大会抄録集, 141. (査読あり・国内学会) (8/30,オンデマンド)
40. 黒田久美子, 佐藤禮子, 中村伸江, 酒井郁子, 石橋みゆき, 増島麻里子(2024). 理事会企画 今後の学会活動の探求—30年の学会の歩みをふまえて. 第30回千葉看護学会学術集会抄録集, 5, (査読あり・国内学会)
41. 井出成美 (2024), シンポジウムI 専門職連携教育 (IPE) の地域社会への展開～IPEからIPWへ 2) 諸機関と共に創るIPEの地域展開. 第17回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 17(査読あり・国内学会)
42. 酒井郁子 (2024), シンポジウムII 災害時の生活支援と専門職連携 3) 大学院教育における災害時専門職連携演習 (災害IP演習) . 第17回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 22(査読あり・国内学会)
43. 下井俊典 (2024) パネルディスカッション 「リハビリテーション専門職の臨床生理学的視座」抹消神経の神経難病患者に対する表面筋電図を活用した筋疲労特性に関する研究. 日本臨床生理学会雑誌第61回総会抄録号, 54(4), 90.
44. Jiaru Sun, Toshinori Shimoi, Narumi Ide, Ikuko Sakai, (2025) . Implementation Status and Challenges of IPE in JAPAN- From the Perspective of Contribution to Society (Social Implementation), 国際フォーラム Grobal Regional IPE+フォーラム サービスラーニング×IPEが拓く協働の未来(査読なし・国内)
45. 下井俊典 (2025) :シンポジウム -多職種連携教育の深化に向けた実践報告-. 全国大学理学療法学会
46. 孫佳茹(2025) スカウティング研究フォーラム 「スカウトライブラリーの価値を探る—その根拠となる1冊を探して—」 (査読なし・国内)



## IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の3つの学部からはじまった亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成されました。

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター  
令和6年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究院専門職連携教育研究センター

編集者：酒井郁子、井出成美、下井俊典、孫佳茹、齊藤可紗、辻野拓也、野崎章子、佐野朋子、  
高野佳奈、富永嘉子

発行日：令和7年（2025）年3月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

E-mail : inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※ 本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。  
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めさせていただきますよう、お願いいたします。